

平成27（2015）年度入学者

専門教育科目

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ		科目ナンバリング	YF_L23012
担当者氏名	小出 享一			
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

相談援助の過程とそれに係る知識や技術について理解し、事例分析の意義や方法、相談援助の実践について学ぶ。授業ではテキストのほか、新聞記事、DVDなども活用する。また相談援助に実際に関わっているソーシャルワーカーにゲストスピーカーで来てもらい、話しをしてもらう予定である。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座8『相談援助の理論と方法Ⅱ』（中央法規出版）

《参考図書》

参考図書は授業時にその都度、紹介したい。

《授業の到達目標》

①相談援助の理論、対象者、実践モデルについて学ぶ。②相談援助の過程とそれに係る知識、技術、相談援助の実践について学ぶ。

《授業時間外学習》

社会福祉は、その時々の政治、社会、経済のあり方や状況によって、変化し、動く。法律・制度や福祉サービスはその影響を受けることが多い。新聞や雑誌、テレビ、インターネットなどの情報を活用して、社会の動向などに注目しておいてほしい。

《成績評価の方法》

筆記試験、出席によって評価する。（出席重視）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	障がいを持って生きるということ（自己紹介と授業の進めたかたについて）
2	相談援助における対象の理解	①社会福祉相談援助活動の概念と定義、②相談援助の対象、③新たなソーシャルワークの展開
3	ケースマネジメント	①ケースマネジメントの基本、②過程、③アセスメント、④ケアプランの作成・実施、⑤特徴、⑥ケースマネジメントとソーシャルワークの関係
4	グループワーク	①グループを活用した相談援助、②自助グループを活用した相談援助
5	コーディネーションとネットワーク	①コーディネーションの目的と意義、②ネットワークの目的と意義
6	相談援助における社会資源の活用・調整・開発	相談援助における社会資源の活用・調整・開発
7	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ	①実践モデルとその意味、②治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル、③ジェネラリストソーシャルワークの展開と実践モデル
8	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ	①エンパワーメントアプローチ、②ナラティブアプローチ、③認知アプローチ、④その他のアプローチ
9	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ	①スーパービジョンの意義と目的、②スーパービジョンの方法と留意点、③コンサルテーション
10	ケースカンファレンスの技術	①ケースカンファレンスの意義と目的、②運営と展開過程、③ケースカンファレンスの実際、④ケースカンファレンスの評価と普遍化
11	スーパービジョンとコンサルテーション	①スーパービジョンの意義と目的、②スーパービジョンの方法と留意点、③コンサルテーション
12	個人情報保護と情報通信技術の活用	①相談援助における個人情報保護、相談援助における情報通信技術の活用
13	事例研究・事例分析	①事例研究の目的と意義、②事例研究の方法と留意点、③事例分析の目的と意義、④事例分析の方法と留意点
14	相談援助の実践	実践事例
15	まとめ	相談援助の理論と方法Ⅱのまとめと社会福祉士国家試験の対策について

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 I		科目ナンバリング	YF_L13004
担当者氏名	谷口 泰司			
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期
				3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む 			

《授業の概要》

不慮の事故や疾病がない限り、人は誰しも高齢期を経験する。高齢期における尊厳を考えることは、その前段としての「今をどう生きるか」「そのために今何が必要か」を考える際の視野を拓けるものとなる。本講義では、高齢者の理解にはじまり、介護保険制度だけでなく様々な公的支援の概要と、公的支援以外の地域や家族のあり方について学習していく。

《授業の到達目標》

- ・高齢者の生活課題は「介護」だけではないことを説明できる。
- ・高齢者は課題と生活同等以上の強み・可能性を持つことを説明できる。
- ・豊かな高齢期を迎えるために幼少期～青壮年期に何が必要かを考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・試験80%
- ・レポートまたは質問票による質疑内容20%

《テキスト》

指定しない。
毎回の講義ごとに配布する資料を用いる。

《参考図書》

高齢者に対する支援と介護保険制度 第5版（中央法規）

《授業時間外学習》

歴史領域を講義する個所以外においては、高齢者の支援は極めて日常的な問題である。日々の新聞やテレビ等において、高齢者や地域といったキーワードを含む報道に対し、批判的に考察するという習慣づけが望ましい。

《備考》

制度や法律に完全なものは一つもない。また、高齢者支援の答えに唯一絶対のものはない。このことをふまえ、常に講義内容を批判するという姿勢で臨むことが大事である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 高齢者とは何か	・講義全体の流れとスケジュール、聴講に際しての留意点を理解する。 ・高齢者に関する様々な定義から、自身としての高齢者像の輪郭を持つ。
2	少子高齢化の推移と現状 少子高齢社会の将来予測	少子高齢化の推移、特に戦後の高度成長期がわが国の人口動態に与えた影響を理解するとともに、現在の人口減少局面が将来にどのような影響があるかを説明できる。
3	高齢期の心身特性と課題	高齢期に特有の心身特性を理解し、これら心身特性に対し何等の支援も行われない場合に、いかなる生活課題を抱えることになるかを説明できる。
4	高齢者を取り巻く環境因子の特性と課題	本人以外の環境が、高齢者に及ぼす影響を理解し、社会としての支援の必要性・環境整備の重要性を説明できる。
5	高齢期の所得保障と生活水準	高齢期の所得保障の手段として何があり、いかなる水準かを理解する。また、高齢期における所得格差が生み出す諸課題について説明できる。
6	高齢期の医療保障と疾病	後期高齢者医療制度をはじめとする医療保障の現状と諸課題について理解し、疾病と生活水準の関係性、医療保障の意義について説明できる。
7	高齢期の諸活動	高齢者の強みを生かした諸活動の現状をとおして、高齢期における様々な可能性を理解することで、第1週で思い描いた高齢者像の再考を試みる。
8	高齢者支援の沿革	高齢者支援が今日の姿となるまでに、わが国が迎ってきた諸施策や家族支援の沿革を説明できる。
9	介護保険制度の創設	1990年代のゴールドプランの重要性と介護保険制度の関係を理解し、介護保険制度創設の意図と、創設に至るまでの各制度における問題の所在について説明できる。
10	介護保険制度における介護サービスの特徴	介護サービスの種類ごとの特徴と意義を理解するとともに、介護保険制度の限界について、支給限度基準額と居宅生活継続の可否等を含めた問題の所在を説明できる。
11	介護保険制度における地域包括ケアの意義と課題	地域包括ケアの必要性とあるべき姿を把握したうえで、地域包括ケアにかかる市町村ごとの格差の現状を理解し、専門職としての活動の在り方を説明できる。
12	老人福祉法の意義と課題	介護は高齢者支援の一部に過ぎず、より広範な「福祉」が必要であることを理解し、高齢者支援の幅の広さを説明できる。
13	高齢者虐待の実態と今後のあり方	高齢者虐待の実態を理解し、虐待防止に必要な視点、専門職として留意すべき点を説明できる。
14	高齢障害者を取り巻く諸課題	社会的排除状態にあった障害者の高齢化がもたらす諸課題や、地域の偏見により隠されてきた高齢障害者の生活実態を説明できる。
15	まとめ（尊厳とは何か）	全体のまとめを通して、第1週及び第7週で描いた高齢者像との比較を行いつつ、尊厳とは何か、生活支援ではなく生き方支援とは何かについて説明できる。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	科目ナンバリング	YF_L23014
担当者氏名	河野 真		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

高齢者支援の方法，専門職の役割について理解するとともに，介護の概念やプロセス，多様な介護の態様について学ぶ。

《テキスト》

『高齢者に対する支援と介護保険制度(新・社会福祉士養成講座13)』社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規出版，及び授業中に配布するプリント。

《参考図書》

《授業の到達目標》

高齢者支援の方法，専門職の役割について説明できる。介護過程の展開技法について理解する。介護の内容や対象者別の介護方法について理解する。

《授業時間外学習》

講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験80%，授業への参加とその成果20%。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	高齢者に対する支援	I期講義のまとめとⅡ期講義の課題と対象
2	高齢者支援の方法と実際(1)	高齢者支援の方法
3	高齢者支援の方法と実際(2)	介護保険法における連携と実際
4	専門職の役割と実際	他職種連携と専門職の倫理
5	介護の概念や対象(1)	介護の概念と範囲，介護の理念
6	介護の概念や対象(2)	介護の対象，介護予防の概念
7	介護過程(1)	介護過程の概要
8	介護過程(2)	介護過程の展開方法
9	介護各論(1)	自立に向けた介護
10	介護各論(2)	食事・口腔衛生の介護，入浴・清潔・排泄の介護
11	介護各論(3)	認知症ケア
12	介護各論(3)	終末期ケア
13	介護各論(4)	住環境
14	近未来の高齢者福祉課題(1)	近未来社会における高齢者問題と支援システム
15	近未来の高齢者福祉課題(2)	能動的積極的な支援(アクティブエイジング，グロウイングホルダー)講義のまとめ

科目名	加齢及び障害に関する理解		科目ナンバリング	YF_L23016
担当者氏名	奥 典之			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む			

《授業の概要》

高齢者・障がい者の心理についての基本書を用いて、基本的・理論的な枠組みを事例等も活用し、理論と実践の両面からの学習を行っていく。本講は免許・資格取得科目のため、それらのエッセンスを適宜加えていくことにより、それらの専攻者としてのアイデンティティをもてるような内容とする。

《テキスト》

中野善達・守屋國光 編著「老人・障害者の心理」（改訂版）
福村出版

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

社会福祉の専門職をめざす学生に対して、高齢者や障がい者に適切に接し、あるいは支援したり介護し、地域社会で共に生活していく基盤づくりができるようになるために、高齢者や障がい者をよりよく理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

自分自身の生活から切り離れた特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめる訓練を続けて欲しい。

《成績評価の方法》

平常点と筆記試験、及び課題レポートによる。
全評価に対する割合（％）については、最初の授業で説明する。
提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老人の心理	老年期と老化について
2	老人の心理	老人意識の問題について
3	障害とその心理的影響	障害と障害者について
4	障害とその心理的影響	障害の受容について
5	老人の心理的特性	老年期の精神機能について
6	老人の心理的特性	老年期の知能、記憶機能について
7	老人の心理的特性	老年期の人格と適応について
8	障害の原因・程度・種類別心理的特性	先天性・中途、中・軽度障害、視覚障害について
9	障害の原因・程度・種類別心理的特性	聴覚、言語、内部障害、肢体不自由について
10	障害の原因・程度・種類別心理的特性	知的、精神障害、軽度発達障害について
11	老年期の精神障害・機能障害とその心理	老年期の精神障害とその心理について
12	老年期の精神障害・機能障害とその心理	老年期の機能障害とその心理について
13	高齢者・障害者への対応	高齢者事例研究について
14	高齢者・障害者への対応	障害者事例研究について
15	老人・障害者の心理	総括として

科目名	障害者福祉論	科目ナンバリング	YF_L23017
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む		

《授業の概要》

就学前の集団保育の場では、義務教育の場より統合保育が進んでいるといわれる。就学前の子どもに関わる仕事をしたいと考える受講生に、障害があるということ、障害のある子どもを持つということ、その保護者への支援、その子どもの将来像について考える機会を提供する。

《テキスト》

プリント教材の配布、視聴覚教材の利用。

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 障害に関する資料をもとに、受講生は意見交換をし、障害に関する視野を広げ、知識を深め技術を磨き、実践に役立てられるようにする。
- 自らの障害者福祉論を確立させ、他者に説明することができる。
- 授業の学びを「保育実習」等において、役立たせることができる。

《授業時間外学習》

障害のある人に関する新聞報道等には関心を持ち、現状を把握するよう努めてもらいたい。

《成績評価の方法》

授業への参加態度と意欲 (50%)
 課題の提出：授業終了時に学修の理解度を確認するために小テストを課し、その後返却し復習の機会とする。(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業のねらい、授業内容、授業の進め方、到達目標と評価について説明する。「障害があるということ」について考え理解する。
2	障害者支援の歩み - 1	スウェーデンにおける脱施設化の経緯 (DVD) について理解する。
3	障害者支援の歩み - 2	スウェーデンの実態とわが国の現状について理解する。
4	障害のある子とともに - 1	障害のある子どもを持つということについて理解する。
5	障害のある子とともに - 2	わが子が子どもの時に会った保育者・先生について保護者が語る (DVD) を視聴して、保育者のあるべき姿について理解する。
6	統合保育から統合教育へ	健康診査 (5歳児健診、就学時健診) の現状を理解する。
7	特別支援学校と普通学校	子どもの最善の利益を視点にして、学校教育について理解する。
8	ふつうに生きるということ - 1	作業所で働くということ (DVD) を視聴して、障害のある人のふつうの生活を理解する。
9	ふつうに生きるということ - 2	当事者からの報告 (DVD) を視聴して、自閉症について理解する。
10	ふつうに生きるということ - 3	法定雇用率と特例子会社について学習し、障害者雇用について理解する。
11	障害の概念の変化 - 1	ICFの概念を理解する。
12	障害の概念の変化 - 2	ICFの活用の仕方について学習し、その利点について理解する。
13	インクルージョン - 1	統合保育の意義について理解する。
14	インクルージョン - 2	糸賀一雄と金子みすゞの世界 (DVD) について考え理解する。
15	まとめ	授業全体を振り返り、各自の障害者福祉論を報告する。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	権利擁護と成年後見制度		科目ナンバリング	YF_L23018
担当者氏名	小林 茂			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

社会で暮らすうえで誰もが基本的人権が守られ暮らしていく権利があります。社会福祉の支援を求める人々は、権利侵害を受けやすい状況にあります。社会福祉の専門職をめざす学生として、権利擁護の仕組みを学ぶとともに、その運用について理解を深めます。

《授業の到達目標》

- (1) 日本国憲法、民法等を理解し、その運用について正しく把握する
- (2) 権利擁護、成年後見制度の仕組みと関係諸機関について理解する
- (3) 権利擁護を必要とする人々の現状を理解し、専門職連携について実践を学ぶ

《成績評価の方法》

- (1) 授業における課題、事例検討などへの参加 (20%)
- (2) 定期試験 (80%)

《テキスト》

「新・社会福祉士養成講座19(第4版) 権利擁護と成年後見制度」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版(2015年)

《参考図書》

「自立生活の思想と展望」定藤丈弘、岡本栄一、北野誠一編 ミネルヴァ書房(1993年)
 「自立と福祉」庄司洋子、菅沼隆、河東田博、河野哲也編 現代書館(2013年)

《授業時間外学習》

予習すべきテキストの箇所は適時指示をします。

《備考》

授業中における携帯電話使用の禁止、私語、無断離席など授業を妨害する者は、他の学生の権利を侵害したもの見なします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉と権利擁護	オリエンテーション/ 社会福祉の現場における権利擁護の必要性の理解、児童の権利擁護の概要の理解をする
2	日本国憲法の基本原理の理解	日本国憲法の基本原理、特に基本的人権、生存権、自由権、社会権について理解をする
3	民法の理解①	意思能力、行為能力、契約、不法行為、消費者保護の概念を理解をする
4	民法の理解②	親族法、親権、扶養、相続等について理解をする
5	行政法の理解	行政行為等の行政法の理解、行政救済三法の理解をする
6	成年後見制度の概要①	未成年後見制度、成年後見制度の概要を理解するとともに、成年後見の概要について理解する
7	成年後見制度の概要②	保佐、補助の制度概要について理解するとともに、任意後見人制度を理解する
8	日常生活自立支援事業の概要	日常生活自立支援事業の概要を理解するとともに、社会福祉協議会における実践事例から制度の活用の仕方を学ぶ
9	成年後見制度利用支援事業の概要	成年後見制度利用支援事業の概要を理解する
10	権利擁護に関わる組織団体の役割	家庭裁判所、法務局、市町村等権利擁護に関わる組織・団体について理解する
11	権利擁護に関わる専門職の役割	弁護士、司法書士、社会福祉士など権利擁護に携わる専門職を理解するとともに、近年注目が集まる市民後見について考察する
12	権利擁護活動の実際① (障害者への支援)	知的障害者、精神障害者等への権利擁護活動の事例から、権利擁護の実践を理解する
13	権利擁護活動の実際② (要保護児童への支援)	要保護の児童への権利擁護の事例から、権利擁護の実践を理解する
14	権利擁護活動の実際③ (多問題家族への支援)	多問題家族への権利擁護活動の事例から、地域での日常生活支援の実践を理解する
15	総論	社会福祉における権利擁護制度の役割について、これまでの授業を振り返りながら考察していく

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	地域福祉の理論と方法 I	科目ナンバリング	YF_L23019
担当者氏名	田端 和彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

地域社会が大きく変容する中であって、児童の虐待問題など子どもを取り巻く環境も変化をしています。こうした課題に取り組む社会福祉の視点は、国家が制度と枠組みを定める福祉国家から、多様な地域社会のそれぞれの状況に合致する福祉を目指す福祉社会の方向に移り変わりつつあります。そうした時代を踏まえ、地域福祉を学ぶ際に必要な各分野の基礎知識を身につけます。

《授業の到達目標》

福祉社会の中での地域の重要性と地域福祉の意義を理解し、地域福祉に係る理論、制度、歴史的経緯、利用可能な資源（人材や組織を含む）についての知識を獲得し、福祉の専門職やそれを支える専門職として地域と関わる実践に役立てるようにします。

《成績評価の方法》

定期試験で70%を評価します。授業態度として、レポート課題の提出状況などを評価します（30%）。

《テキスト》

井村圭壯、相澤譲治編著『地域福祉の原理と方法（第2版）』学文社

《参考図書》

必要に応じてプリントを配布します。

《授業時間外学習》

事前学習としては、次回の授業に関連し調べておくことを指示します。事後学習としては授業で宿題を課すことがありますので、レポートとして提出してください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要と地域福祉の位置づけなどを理解します。
2	地域福祉の思想と理論	地域福祉の理論について、岡村の考え方から、2000年以降の新しい理論における考え方を学びます。
3	地域福祉の形成と発展	先進国イギリスの制度的な歩みと日本における明治時代からの地域福祉の源流、戦後の発展、さらに戦後アメリカからもたらされた地域組織化について学びます。
4	地域福祉の法律と組織	地域福祉法という法律はありませんが、社会福祉法、地方自治法など関連する法律が多くあり、それに基づく組織があります。主なものについて学びます。
5	地域福祉における社会福祉協議会の役割	地域福祉の要でもある社会福祉協議会の歴史的な経緯や現在の活動を学びます。
6	地域福祉の主体と対象	地域福祉の推進を担う存在は何か、それらはどのような役割を果たすものであるのか、を学びます。
7	地域福祉の専門職	地域には様々な専門職の方がいます。地域福祉を支える専門職の役割と推進する中心者たるコミュニティソーシャルワーカーについて学びます。
8	地域福祉における社会資源	フォーマル、インフォーマルを問わず、地域にある様々な社会資源の存在とその開発について学びます。
9	地域福祉における福祉ニーズの把握方法	ニーズとは、本来あるべき像と実際との違いであり、それが社会的に認められたものを社会的ニーズとといいます。福祉におけるニーズの定義とその調査方法を学びます。
10	地域トータルケアシステム	人の抱える課題は複雑化しており、それらを縦割りで区分された状況での解決は困難です。チームアプローチや制度の連携など具体的な在り方を学びます。
11	地域福祉における福祉サービスの評価	福祉サービスの評価が必要となる背景は何か、そしてそのための仕組みはどのようなものかを学びます。
12	地域福祉と福祉計画	地域福祉計画の内容とその策定に係る過程、課題について学びます。
13	地域福祉と福祉教育	実は、学校教育の中に福祉教育は組み込まれていました。さらに福祉教育は社会教育の場面でも発揮されます。そうした事情について学びます。
14	地域福祉とNPO・ボランティア活動	1998年のいわゆるNPO法の制定以来、成長したNPOは地域福祉を支える要ともなりつつあります。その役割と福祉との関係を学びます。
15	地域福祉の財源基盤、そして課題と展望へ	地域福祉を動かすためには「お金」が不可欠です。財政学の基礎を含め、お金の出所を学びます。そして15回の授業を踏まえ地域福祉の将来の展望について学びます。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	福祉行財政と福祉計画		科目ナンバリング	YF_L23020	
担当者氏名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力			

《授業の概要》

三位一体の改革や基礎構造改革、また介護保険制度や障害者総合支援法等の導入に伴い、福祉は大きな転換を余儀なくされた。それと共に、今日までの中央集権的な福祉システムから地方分権型へと、行財政のあり方も大きく変化し、地方自治体の役割が問われている。社会福祉の現状と今後の動向を理解し、福祉の法制度と行財政の双方から学んでいく。

《テキスト》

著者名 新社会福祉士養成講座第10巻「福祉行財政と福祉計画」第4刷発行 出版社 中央法規出版2014.4

《参考図書》

「わよくわかる福祉と法」ミネルヴァ書房2010.10 第2刷発行

《授業の到達目標》

①基本的な福祉制度の形成過程を理解する。②これまでの国と地方の役割や福祉サービスの供給体制や制度の経緯をしる。③福祉サービスを利用する住民の視点で制度政策を理解する。④家庭や児童、また高齢者や障害者等が地域で自立して生活できる仕組みを理解する。⑤少子高齢化の問題を自分たちの課題として捉えていく。以上を通し、福祉行財政の全般を理解し、自らも福祉計画に参画することができる。

《授業時間外学習》

授業の中で適時課題を課すので、随時指示された期日までに提出のこと。

《成績評価の方法》

出席状況(20%)＋学期末試験(60%)＋その他、受講態度など(20%)で総合的に判断。

《備考》

授業内容は講義の進展により前後する場合があるが、基本的にはテキストに沿う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス（コース概要）	社会福祉の学習を始めるにあたって、それを取り巻く環境や社会福祉法制の原理と学習について概要説明。
2	福祉行財政と福祉計画①福祉法制度の展開	日本における社会福祉の起源と戦後の展開。また措置から契約への制度転換、今日の日本の基礎構造改革等について学ぶことができる。
3	福祉行財政と福祉計画②福祉計画の概要	福祉の概念を多面的な角度で整理し、半世紀以上にわたる社会福祉の法制度の展開過程を知り、福祉計画が登場した背景を知ることができる。
4	福祉行政の骨格と社会福祉の法制度	社会福祉援助に取り組む実践の場が、どのような法制度や福祉行政によって規定されているかを知ることができる。
5	福祉行政の組織と社会福祉基礎構造改革	措置から利用者の自己選択、自己決定に基づく制度転換をもたらせた社会福祉の構造改革と、社会福祉の基礎構造について学ぶ事ができる。
6	福祉財政	国や地方自治体の社会福祉財政の全体像について学ぶ事ができる。
7	福祉行政の組織と団体の役割	福祉八法を中心とする公的な組織や団体を知り、その役割や課題について学べる。
8	福祉専門機関と専門職	介護保険制度の創設や要介護認定の方法、サービス利用の手続きについて学ぶ事ができ、福祉に携わる専門職として実践で有効な知識を身につけることができる。
9	福祉計画の目的と意義	福祉計画がどのような文脈の中で行政で取り組まれているかを理解し、その目的を踏まえた計画策定がなされていることを理解することができる。
10	福祉計画の基本的視点と課程及び留意点	福祉援助の実際、地方自治での福祉計画を知り、その目的や役割を理解することができる。
11	福祉計画におけるニーズの把握と評価	福祉計画作成の際の原点でもあるニーズの把握技法やその評価を知ることができる。
12	福祉計画への住民参加	福祉計画への住民参加の現状を知ることができる。
13	老人福祉計画と介護保険計画及び障害者計画	今回まで学んだ福祉計画の理解を元に、実践編として計画者の立場から福祉計画を一つのシステムとして捉え、その特性や方法などを5つの枠組みで研究できる。
14	次世代育成支援計画と地域福祉計画	老人福祉計画や介護保険計画の作成と共に義務づけられている、次世代支援計画や地域福祉計画を学ぶ事ができる。
15	まとめ	社会福祉行財政の全般的理解と共に、学生自らが主体的に問題意識を持ち、多様な福祉サービスのなかで、自己ができることを考えられるようになる。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	福祉サービスの組織と経営		科目ナンバリング	YF_L23021
担当者氏名	西澤 正一			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力			

《授業の概要》

福祉六法を基盤とする福祉のあり方は、その時代の背景と共に常に変化しているが、特に今日、「少子超高齢化社会の到来」という深刻な社会問題に直面するなかで、公立や社会福祉法人が中心となって運営していたサービスに加え、多様な形態の福祉サービスの提供主体が参入してきた。利用者自らが福祉サービスを選択する時代のもとで、選ばれる施設となるための組織や施設経営のあり方を、福祉実践体験を通して学ばせる。

《授業の到達目標》

①福祉サービスに関わる組織や団体について学ぶ。②福祉サービスに関わる組織の経営についての基本的理論を理解する。③福祉サービス提供組織の経営の実際を学ぶ。④福祉サービスの管理運営の方法と実際を理解する。以上を通して、児童福祉に関わる福祉サービスのみならず全般的な福祉サービス提供主体を学び、そこにおける経営のあり方を考えることができる。

《成績評価の方法》

出席状況（20%）＋学期末試験など（60%）＋その他グループ討議の発表や受講態度を総合的に判断（20%）

《テキスト》

中央法規「福祉サービスの組織と経営」は社会福祉士養成テキストであり、こども福祉学科では特にテキストは指定しないが、下記記載の参考図書があれば望ましい。

《参考図書》

「保育士完全合格テキスト」上 2017年版「保育士完全合格テキスト」下 2017年版 共に著者：保育士試験対策委員会

《授業時間外学習》

授業の中で適時課題を課すので、そのつど指示期日までに提出のこと。また積極的に自分自身で講義に関する課題を見だし、不明な点は随時確認すること。

《備考》

※授業計画における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後する場合もある。基本はテキストに沿うが、福祉現場での実践を多く紹介し、受講者自らが考える授業としたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス（コース概要）	社会福祉の専門職としての資格取得や社会福祉事業に従事する者として、机上の理論のみでなく、実践から学ぶ福祉の運営管理について学ぶことができる。
2	福祉サービスにおける組織と経営	福祉サービスの異議だけでなく、福祉サービスの提供組織や経営管理について、その時代のニーズや環境によって変化する現状と経営理論を理解する事ができる。
3	福祉サービスに関わる組織・（社会福祉法人等）	法人の存在意義や基本形態を学び、福祉サービスに関わる団体や組織について学ぶことができる。
4	福祉サービスに関わる組織・（NPO法人等）	福祉サービスに関わる多様な組織団体について学ぶ事ができる。
5	組織と経営の基礎理論	福祉サービスに関わる組織の経営の実際に触れ、その基礎理論を理解することができる。
6	福祉サービスの管理運営の方法①管理と質	福祉サービスの管理運営の方法とサービスの質の向上について理解することができる。
7	福祉サービスの管理運営の方法②人事と労務	福祉サービスにおける人事と労務管理について理解することができる。
8	福祉サービスの管理運営の方法③研修と倫理	福祉における研修のあり方と福祉従事者の倫理を学ぶ事ができる。
9	福祉サービスの管理運営の方法④財源と財務	福祉サービスの財源とその運用管理の財務事務を理解することができる。
10	福祉サービスの管理運営の方法⑤情報と広報	福祉の情報発信のあり方と広報について学ぶ事ができる。
11	児童福祉法に基づく福祉施設	児童福祉法上の多くの福祉施設類型を理解し、その現状と社会的養護の必要性を学ぶ事ができる。
12	事例検討①社会養護	福祉（特に児童福祉を中心として）に関わる事例をもとに、社会養護の現状を理解することができる。
13	事例検討②児童養護施設	福祉（児童養護施設等）に関わる事例をもとに、養護施設の現状を理解することができる。
14	事例検討③児童相談所	児童相談所での事例をもとに、児童相談所の役割や現状を理解することができる。
15	まとめ	福祉施設の役割や現状を知る姿勢を学生自らが身につけることによって、今日の福祉施設の役割や課題を理解し、総合的な判断をすることができる。

科目名	社会保障論 I		科目ナンバリング	YF_L12005
担当者氏名	谷口 泰司			
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期
				3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

現代社会においては、私たち全ては何らかの社会保障のもとに安心した生活を営んでいる。社会保障の仕組みを正しく理解することは、子育てと生計維持の両立に悩む保護者に貴重な助言を与えると同時に、自身の生活の見通しを立てるためにも有効である。本講義では、わが国の社会保障の理解を中心に、生涯を通じた諸制度の理解と保護者支援時の伝達力の向上を視野に入れた展開を行う。

《授業の到達目標》

- ・ライフステージや生活実態に応じた社会保障について、保護者に助言を与えることができる。
- ・自身の生活設計について、社会保障を含めた将来像を描くことができる。
- ・社会保障をめぐる議論や報道に対し、自らの考えを根拠を持って述べるができる。

《成績評価の方法》

- ・試験80%
- ・レポートまたは質問票による質疑内容20%

《テキスト》

指定しない。
毎回の講義ごとに配布する資料を用いる。

《参考図書》

社会保障 第4版（中央法規）

《授業時間外学習》

日々の生活に社会保障は密接に関連している。医療機関の受診時の医療保険または医療扶助、アルバイト学生の場合は労災保険など、日常生活における諸制度について少し立ち止まるだけでも実際に伴った学習となるので、日々の生活を制度面から再考することが大事である。

《備考》

制度や法律に完全なものはない。また、社会保障のあり方に唯一絶対のものはない。このことをふまえ、常に講義内容を批判するという姿勢で臨むことが大事である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 社会保障とは何か	・講義全体の流れとスケジュール、聴講に際しての留意点を理解する。 ・社会保障とは何かについて、保険・福祉・公的扶助の輪郭を持つ。
2	ライフステージと社会保障の関係	幼少期から高齢期に至るまで、ライフステージごとに異なる社会保障の仕組みを理解し、安心・安定した社会生活と自己実現を図るための社会保障の必要性を説明できる。
3	社会保障の沿革	社会保障が今日の姿となるまでにわが国が辿ってきた道程を理解するとともに、50年勧告における理念と今日のかい離の是非について説明できる。
4	医療保険制度・医療扶助	各種医療保険の概要を理解するとともに、国保及び後期高齢者医療保険から排除された場合の医療扶助を含む医療保障の全体像を説明できる。
5	年金保険制度①（高齢）	老齢基礎年金・老齢厚生年金の制度を理解するとともに、企業年金を含めた老齢年金の概要と受給者の実態を説明できる。
6	年金保険制度②（障害・遺族）	障害（基礎・厚生）年金・遺族（基礎・厚生）年金の制度を理解するとともに、障害年金を巡る都道府県格差の実態と、未受給者に対する支援の現状について説明できる。
7	社会手当	児童手当・児童扶養手当・特別児童扶養手当等の社会手当の目的・対象者等の違いと併給の可否等について整理し、保護者に対し適切な助言を行うことができる。
8	介護保険制度・介護保障	介護保険制度の輪郭を理解するとともに、制度未加入者の整理とこれらの者に対する他法制度による救済の状況を理解し、保護者等に説明できる。
9	雇用保険制度・求職者支援	失業時等における雇用保険制度の機能と給付等について理解するとともに、雇用保険対象外の者に対する求職者支援の概要を含め、保護者等に説明できる。
10	労災保険制度・労働法制	労働災害とは何かを理解するとともに、企業における労災隠し等の要因の所在を理解することで、労働者としての正しい権利を行使できる。
11	社会保障給付の推移と諸課題	今日までの国民所得の推移と社会保障給付費の推移を比較しつつ、社会保障を取り巻く諸課題のうち、財源問題について理解し、他者に説明できる。
12	社会福祉制度	事故別に構成された社会保険制度と対象者別に構成された社会福祉制度の違いを理解し、保険制度になじまない福祉の諸制度の必要性和各制度の概要を説明できる。
13	公的扶助制度・生活困窮者支援	社会保険・社会福祉をもってしても最低生活の維持が困難な場合の公的扶助の役割と、要保護状態となる恐れのある者に対する生活困窮者支援について説明できる。
14	社会的排除の実態と展望	社会保障の枠組みから漏れた者の生活実態と、社会保障の制度疲労等の欠陥について理解し、今後のあり方について自身の考え方を説明できる。
15	まとめ	全体のまとめを通して、自身の生活設計における社会保障との関わりを説明できるとともに、保護者等に対し、状況に応じた適切な助言を行うことができる。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	社会保障論Ⅱ		科目ナンバリング	YF_L23022	
担当者氏名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

本講義では、少子高齢化や生活の都市化・核家族化、所得格差の拡大、福祉サービス供給や財源調達、管理運営に関する公私関係、現代社会における社会保障制度の諸課題について教授するとともに、社会保障制度の発達過程や諸外国の制度についても理解を深める。

《テキスト》

『社会保障(新・社会福祉士養成講座12)』社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規出版、及び授業中に配布するプリント。

《参考図書》

《授業の到達目標》

社会保障が対応する今日的課題(格差問題、少子化問題、高齢化問題)について、それらの本質や動向について理解する。社会保障の発展プロセスの学習や制度の国際比較を通して、社会保障制度の本質や制度形成のメカニズムを理解する。

《授業時間外学習》

授業で使用するテキストやプリントに事前に目を通しておくこと。授業で扱うトピックスの基礎的な情報や動向については、新聞や書籍、ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し、疑問や関心を持った上で受講することが望ましい。

《成績評価の方法》

定期試験80%、授業への参加とその成果20%。

《備考》

従来日本では経済的繁栄を追うあまり、社会保障改革はなおざりにされてきたが、そうした政策運営には見直しが迫られている。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会保障の今日的課題	オリエンテーション：講義の課題と対象
2	格差問題 (1)	日本及び世界の所得格差の状況
3	格差問題 (2)	格差問題の諸相、格差問題の背景と社会保障制度
4	少子化をめぐる諸問題 (1)	少子化の状況、少子化が進む理由、問題点
5	少子化をめぐる諸問題 (2)	少子化対策の動向(日本及び先進諸国)と対応策
6	高齢社会をめぐる諸問題 (1)	高齢化の状況
7	高齢社会をめぐる諸問題 (2)	高齢化の背景、問題点と対応策
8	社会保障の歴史的展開 (1)	欧米における社会保障発達史
9	社会保障の歴史的展開 (2)	欧米における社会保障発達史
10	社会保障の歴史的展開 (3)	日本社会保障発達史 (1) 第2次世界大戦終了まで
11	社会保障の歴史的展開 (4)	日本社会保障発達史 (2) 戦後～現代
12	諸外国における社会保障 (1)	社会保障の国際比較
13	諸外国における社会保障 (2)	社会保障の国際比較
14	諸外国における社会保障 (3)	北欧、アメリカ、ドイツの社会保障制度
15	社会保障の要点解説	医療・所得保障・社会福祉制度の要点整理

科目名	社会調査の応用		科目ナンバリング	YF_L22025
担当者氏名	田端 和彦			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

テーマを決めて社会調査を行います。調査計画の作成とアンケート調査、または聞き取り調査を実施します。アンケート調査の場合は、回収した結果についてパソコンを使って分析をします。聞き取り調査については、その整理の方法を学びます。こうした実践を通し、統計など分析の手順を学びます。分析の結果を踏まえて考察し、報告書（レポート）を作成します。

《授業の到達目標》

社会調査を企画、実施し、その結果を考察して報告をまとめるという一連の作業について自力でできるようになることが目標です。その過程を通して、統計学的な理解、パソコンへの習熟、報告書を作成することによるプレゼンテーション能力の向上を図ります。

《成績評価の方法》

報告書作成の過程、正課として提出されるレポートの内容で評価をします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	調査の事例などを通して、社会調査の目的や意味、意義などについて理解をします。受講者数によりですが、関心に合わせてグループに分かれます。
2	調査計画の作成1	調査テーマを検討し、調査目標を定め、調査対象や調査項目を考察するなど調査計画書を作成します。グループワークまたは個人でテーマを広げましょう。
3	調査計画の作成2	引き続き、調査対象や調査項目を考察するなど、調査計画書を作成します。
4	アンケート調査票の作成と調査の実施1	調査計画書を元にして、アンケート票を作成します。調査対象者からアンケート調査対象者をどのように抽出するのかを検討します。
5	アンケート調査票の作成と調査の実施2	引き続き、アンケート票を作成します。アンケート調査対象者に対してアンケートを実施します。
6	アンケート調査の実施	引き続き、アンケート調査を実施します。調査件数は100件以上を目標とします。
7	アンケート調査結果のデータ入力1	単数回答、複数回答の場合、また自由記述欄の入力など、アンケート調査結果のデータ入力方法について理解し、実際に入力します。
8	アンケート調査結果のデータ入力2	入力したデータについて論理チェックを行い、修正などを加えて、データ入力を完了し、データセットを作成します。
9	アンケート調査の分析（1変数の分析）1	1変数の分析として単純集計、統計値の計算、ヒストグラムの作成、複数回答に対する集計を行います。統計値について平均値の差の検定などを行います。
10	アンケート調査の分析（2変数の分析）2	2変数の分析としてクロス集計を行い、分散分析、カイ二乗検定についても理解をします。回帰分析、相関係数を行い、係数、定数に対する検定を理解します。
11	聞き取り調査の準備	構造化インタビュー、非構造化インタビューの内容やそこで聞き取るべき内容についてまとめ、調査項目等を作成します。
12	聞き取り調査の実施	調査計画に基づいて調査対象者への聞き取り調査を行います。
13	聞き取り調査の整理	聞き取り調査の結果について、KJ法やGTを用いて整理を行います。
14	報告書の作成1	アンケート分析や聞き取り調査を整理した結果を考察して報告書を作成します。
15	報告書の作成2	引き続き、考察を踏まえ、報告書を作成します。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

慶応義塾大学教養研究センター監修 西山敏樹・常盤拓司・鈴木亮子著『アカデミック・スキルズ 実地調査入門—社会調査の第一歩』慶応義塾大学出版会

《授業時間外学習》

アンケート調査の実施、聞き取り調査の実施については授業時間外に行う必要があります。

《備考》

受講者の数によりですが、原則としてグループ学習で行います。ただし人数が少ない場合は、個人での学習になります。分析や報告書の作成のためパソコンを使用します。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	心理検査法	科目ナンバリング	YF_L23026
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

こどもの福祉現場に出て行ったとき、保育者として知っておくべき「心理検査」について学ぶ。体験・実習した心理検査については、自己理解を深めるためにも有効である。

《テキスト》

必要な資料は適宜配布する。

《参考図書》

遊戯療法ハンドブック ブレーン出版6800円

《授業の到達目標》

知能・発達テスト、人格検査・パーソナリティテストを体験し、自己理解・こども理解を深める。

《授業時間外学習》

こどものあそびについてのDVDや本をできるだけ関心をもってみておいてください。

《成績評価の方法》

受講態度30% 数回のレポート30% まとめのレポート40%

《備考》

配布する資料は、各自ファイルを用意して閉じておいてください。保育実習後の土曜日に2コマ続けて授業をする場合もあるので授業日程や時間をよく確認してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床心理士の心理検査の訓練と心理療法を実際に経験するまでの修行について
2	こどもの相談現場で使用される心理検査①	描画療法
3	こどもの相談現場で使用される心理検査②	風景構成法
4	こどもの相談現場で使用される心理検査③	児童相談所で使用される発達検査 1
5	こどもの相談現場で使用される心理検査④	児童相談所で使用される発達検査 2
6	こどもの相談現場で使用される心理検査⑤	心理学的判定に用いられる社会生活能力検査 1
7	こどもの相談現場で使用される心理検査⑥	心理学的判定に用いられる社会生活能力検査 2
8	こどもの遊びについて①	遊びを用いた心理療法、遊戯療法について 1
9	こどもの遊びについて②	遊戯療法について 2
10	こどもの遊びについて③	遊べないこどもへの支援①
11	こどもの遊びについて④	遊べないこどもへの支援②
12	こどもの相談現場で使用される心理療法	箱庭療法について 1
13	こどもの相談現場で使用される心理療法	箱庭療法について 2
14	こどもの相談現場で使用される心理療法	箱庭療法について 3
15	学習のまとめ	この授業についてのふりかえり

科目名	精神保健学 I	科目ナンバリング	YF_L23028
担当者氏名	和田 光徳		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる		

《授業の概要》

精神障害者を取り巻く現状について検討し、障害者の生活の諸相と課題を概括します。精神保健福祉法等の変遷、施策やサービスの現状、改革の動向を踏まえ生活支援システムについて、とりわけ相談支援、居住支援さらに就労支援を軸に実践課題を明らかにします。精神障害者の理解を疾病や障害の側面からだけでなく、地域で暮らす主体者、市民としてあるべき社会的システム（について検討を加えていきます。

《授業の到達目標》

- 精神障害者の生活支援の理念と特徴について理解する。
- 地域生活における精神障害者の暮らしにくさと課題解決のための支援のあり方、制度や施策について理解する。
 - ・就労支援及び居住支援に関する制度・施策
 - ・精神保健福祉士の相談支援活動について

《成績評価の方法》

- ・授業への積極的な参加（発言、意見表明等）状況
- ・課題レポート

《テキスト》

《参考図書》

《授業時間外学習》

- 「精神保健福祉に関する制度とサービス」等のテキスト及び授業内容について再確認し歴史や精神障害者支援の課題等を把握しておくこと。
- 新聞等の記事に注目し関連する記事を収集すること。

《備考》

- 授業への積極的な参加を求めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神障害者の概念	オリエンテーション及び障害の概念
2	精神障害者の生活の実際	精神障害者を取り巻く現状と生活
3	精神障害者の生活と人権	精神障害者の生活支援の理念、生活支援における人権
4	精神障害者の居住支援 1	居住支援制度の概要
5	精神障害者の居住支援 2	居住支援の実際
6	精神障害者の居住支援 3	居住支援における関係機関等との連携
7	精神障害者の就労支援 1	就労支援制度の概要
8	精神障害者の就労支援 2	就労支援の実際
9	精神障害者の就労支援 3	就労支援における関係機関等との連携
10	精神障害者の生活支援システム 1	精神障害者の自立と社会参加
11	精神障害者の生活支援システム 2	福祉的就労等の生活支援
12	精神障害者の生活支援システム 3	生活支援における地域の役割
13	ソーシャル・サポートネットワーク	ソーシャル・サポートネットワーク
14	行政機関における相談支援	市町村における相談支援
15	まとめ	まとめ

科目名	精神保健福祉援助技術各論 I		科目ナンバリング	YF_L23029
担当者氏名	和田 光徳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

- ①精神障害者を対象とした相談援助活動の展開
 - ②家族調整・支援
 - ③地域移行
 - ④地域を基盤にした相談援助
- 上記4点について、講義と事例検討を通して学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第2版』日本精神保健福祉士養成校協会編 中央法規 2014年

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①精神障害者を対象とした支援の基本的考え方と相談援助技術の展開について理解する。
- ②精神障害者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。
- ③精神障害者の地域生活の実態と社会情勢および地域相談援助における基本的な考え方について理解する。
- ④上記①②③について説明し自分の意見が言えるようになる。

《授業時間外学習》

各回の講義の前にテキストの該当箇所を目を通し、予習しておくこと。

《成績評価の方法》

授業への参加意欲、態度 20%
 レポート等の提出 20%
 定期試験 60%

《備考》

- ①ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。
- ②講義中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の展開①	個別支援の実際と事例分析
2	相談援助の展開②	集団を活用した支援の実際と事例分析
3	相談援助の展開③	事例による相談援助活動の検討
4	相談援助の展開④	事例による相談援助活動の検討
5	相談援助の展開⑤	事例による相談援助活動の検討
6	家族調整・支援の実際①	精神保健福祉における精神障害者と家族の関係、家族支援の方法
7	家族調整・支援の実際②	事例による家族調整・支援の検討
8	地域移行の対象および支援体制①	地域移行支援の対象と地域移行の体制
9	地域移行の対象および支援体制②	精神保健福祉士の役割と多職種との連携
10	地域移行の対象および支援体制③	地域移行支援・地域定着支援の取組
11	地域移行の対象および支援体制④	地域移行にかかる組織や機関
12	地域移行の対象および支援体制⑤	事例による地域移行支援の検討
13	地域を基盤にした相談援助の主体と対象①	精神障害者をとりまく社会的状況、地域相談援助の主体・対象・体制
14	地域を基盤にした相談援助の主体と対象②	事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討
15	まとめ	本講義で学んだことに関するふりかえり

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ		科目ナンバリング	YF_L23030
担当者氏名	未定			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する			

《授業の概要》

- ①地域を基盤にした精神科リハビリテーションの基本的考え方
 - ②精神障害者のケアマネジメント
 - ③地域を基盤にした支援とネットワーク
 - ④地域生活を支援する包括的な支援
- 上記4点について講義と事例検討を通じて学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第2版』日本精神保健福祉士養成校協会編 中央法規 2014年

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①精神障害者を対象とした地域リハビリテーション、ケアマネジメント、コミュニティワークについて理解する。
- ②地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援の意義と展開について理解する。
- ③上記①②について説明し、自分の意見が言えるようになる。

《授業時間外学習》

各回の講義の前にテキストの該当箇所を目を通し、予習しておくこと。

《成績評価の方法》

授業への参加意欲、態度 20%
 レポート等の提出 20%
 定期試験 60%

《備考》

- ①ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。
- ②講義中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方①	地域ネットワーク、アウトリーチ
2	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方②	地域生活支援事業と訪問援助、家族会およびセルフヘルプグループ
3	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方③	精神保健福祉ボランティアの育成と活用
4	精神障害者のケアマネジメント①	ケアマネジメントの原則
5	精神障害者のケアマネジメント②	ケアマネジメントの意義と方法
6	精神障害者のケアマネジメント③	ケアマネジメントの展開過程、チームケアとチームワーク
7	精神障害者のケアマネジメント④	事例による精神障害者ケアマネジメントの検討
8	地域を基盤にした支援とネットワーク①	地域を基盤にした支援の概念と基本的性格
9	地域を基盤にした支援とネットワーク②	地域アセスメントとBSCおよびSWOT分析
10	地域を基盤にした支援とネットワーク③	地域を基盤にした支援の具体的展開
11	地域を基盤にした支援とネットワーク④	事例による地域を基盤にした支援の検討①
12	地域を基盤にした支援とネットワーク⑤	事例による地域を基盤にした支援の検討②
13	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開①	包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開
14	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開②	事例による地域生活を支援する包括的な取組の検討
15	まとめ	本講義で学んだことに関するふりかえり

科目名	家庭支援論	科目ナンバリング	YK_L23016
担当者氏名	片岡 章彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 		

《授業の概要》

現代家族の子育て環境における、家族の構成、子育て不安、育児ストレスや児童虐待等の要因について検討、考察する。そのうえで、どのような家庭支援が必要なのかを、その背景と援助の在り方について、「子育て支援新制度」の解説を踏まえると共に、保育現場での事例も交えながら理解を深める。また、保育者にはどのような社会的役割が求められているのかについても理解する。

《授業の到達目標》

- 現代家族における子育て環境の抱える問題、課題について知り、家庭支援の背景や必要性について理解する。
- どのような家庭支援の方法があるのか、また配慮が必要なのかについて理解に基づいた考えを述べる事が出来る。
- 保育者に求められる社会的役割を意識する。
- 事例を通して家庭支援の実際を学び、今後における課題を明確にする。

《成績評価の方法》

受講態度10%、課題提出物10%、グループワーク20%、筆記試験60%

《テキスト》

井村圭壯・今井慶宗『保育実践と家庭支援論』勁草書房

《参考図書》

新保育ライブラリ家庭支援論[新版] 北大路書房実践
家庭支援論[改訂版] ななみ書房
これでわかる！子ども・子育て支援新制度 ひとなる書房

《授業時間外学習》

予習：事前学習としてテキストを読んでおき、自分なりの考えを整理しておく。
復習：授業で獲得した知識を、自分の考えとして述べたり生かしたり出来るように、振り返りと整理を十分に行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭の機能とその変容	「家庭」についての理解を深める。
2	家庭支援の必要性	子育てをとりまく現状から、家庭支援の必要性について考え、理解を深める。
3	保育者が行う家庭支援の原理①	実際の保育現場での事例を基にグループディスカッションを行い、保育現場での支援の在り方について学ぶ。
4	保育者が行う家庭支援の原理②	実際の保育現場での事例を基にグループディスカッションを行い、保育現場での支援の在り方について学ぶ。
5	現代家庭における人間関係	社会変化に伴う、人間関係の変容について学ぶ。
6	地域社会の変容	家庭や子ども達をとりまく地域社会の変化を、写真や映像を基に学び、家庭や子どもの育ちにどのような影響をもたらしているのか理解を深める。
7	男女共同参画社会とワークバランス	男女共同参画社会において、特に保育者の役割について学ぶ。
8	子育て家庭のための社会資源	子育て家庭を支援するための社会資源の種類について調べて発表し、お互いの知識の交換を行うことで理解を深め合えるようにする。
9	子育て支援施策・次世代育成支援推進法①	今までの子育て支援施策と次世代育成支援推進法の違いについて理解する。
10	子育て支援施策・次世代育成支援推進法②	ある企業の子育て支援課の従業員という設定で、行動計画の作成をグループで話し合っ て行い、次世代育成支援推進法の意義について理解を深める。
11	子育て支援施策・次世代育成支援推進法③	グループワークで作成した次世代育成支援推進法に伴う行動計画をグループ毎に発表 し、色々な考えに触れながら学び合える機会とする。
12	地域の子育て家庭への支援	今の時代に即した子育て家庭支援における地域の役割について考える。
13	特別な配慮を必要とする児童及び家庭への支援	特別な配慮を必要とする子どもの支援方法と共に、保護者支援について考え学ぶ。
14	子育て支援における関係機関との連携	子育てを支援するうえでどのような関係機関が存在しているのかを学ぶ。
15	家庭支援と今後の課題	授業全体のまとめとして、これからの家庭支援について考え、自分なりの考えを確立す る。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもの食と栄養 I	科目ナンバリング	YS_S23007
担当者氏名	武田 安子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む		

《授業の概要》

保育士として、子どもの食に関する支援をするうえで必要な知識を習得し、実践力につなげていく。小児期の食生活の大切さを理解する。身体に必要な栄養素の働きと、それを含む食品について学ぶ。乳児期・幼児期の食生活の実際を学び、正しい食指導や支援ができる能力を培う。

《テキスト》

「子どもの食と栄養～健やかに発育する食生活をめざして～」赤塚順一他、著 医歯薬出版（株）

《参考図書》

授業時間中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 食べ物に含まれている栄養素がわかり、その働きが説明できる。
- 子どもたちの成長発育段階に適した望ましい食生活指導ができる。

《授業時間外学習》

授業中に予告した内容について、教科書をよく読み、内容を把握してこること。

《成績評価の方法》

定期試験の結果を中心として、小テスト、レポート、受講態度を総合的に評価する。配分は定期試験を70%、小テストやレポートを20%、受講態度を10%を原則とする。

《備考》

学外実習で、子供たちの食環境について学んでください。また、授業で得た知識を実践に活かすためには、普段の自分の食生活を見直し、積極的に料理に取り組むことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの健康と食生活	子どもの栄養の意義と特徴、我が国の最近の食生活の現状と課題について理解し、健康的な生活習慣の大切さを学ぶ。
2	子どもの健康と食生活	子どもの発育と栄養の特徴、子どもの食行動の問題点を理解する。
3	食生活をチェック	自分自身の食生活の問題点を見つけることができる。
4	栄養に関する基本的知識	栄養素とその働きを理解する。（炭水化物、脂質）
5	栄養に関する基本的知識	栄養素とその働きを理解する。（たんぱく質、エネルギー）
6	栄養に関する基本的知識	栄養素とその働きを理解する。（無機質、ビタミン、水分）
7	食事摂取基準	食事摂取基準とは何か。日本人の食事摂取基準について理解する。
8	接触・消化機能の発達	小児の食物摂取機序、消化吸収の生理を理解する。
9	栄養状態の評価	食生活が健康状態や成長・発達に及ぼす影響を見るための指標について理解する。
10	献立・調理の基本	献立作成の基本、1日の栄養配分、調理の意義と方法を理解する。
11	乳児期の心身の発達と栄養	授乳栄養（母乳栄養・人工栄養・混合栄養）について理解する。
12	乳児期の心身の発達と栄養	育児用ミルクの種類や特徴を理解し、調乳ができる。
13	離乳期の心身の発達と栄養	離乳栄養（離乳の必要性、離乳食の進め方）について理解する。
14	離乳期の心身の発達と栄養	離乳食の作り方、調理方法などを学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもの食と栄養Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S23008
担当者氏名	武田 安子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

食事は子どもにとって身体の成長のための栄養摂取だけでなく、基本的な人間形成に極めて重要である。健全な心身の発達を目指すため、保育に関わる人々が、子どもの頃からの発育の栄養学を理解することが求められる。「こどもの食と栄養Ⅱ」では、幼児期から学童・思春期における栄養と食育を含む食環境および特別な配慮を要する子どもの基礎的なことを学ぶ。

《テキスト》

「子どもの食と栄養一健やかに発育する食生活をめざして」
赤塚順一 他著， 医歯薬出版（株）

《参考図書》

授業時間中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。
- 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。
- 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。
- 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

《授業時間外学習》

授業中に予告した内容について、教科書をよく読み、内容を把握してこること。

《成績評価の方法》

定期試験の結果を中心として、小テストやレポート、受講態度を総合的に評価する。配分は、定期試験を70%、小テストやレポートを20%、受講態度を10%を原則とする。

《備考》

子どもをとりまく社会・環境と健康に目を向けて、授業には受け身でなく、積極的に取り組んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児期の心身の発達と栄養	幼児期栄養の特徴と必要性，栄養上の注意を理解する。
2	幼児期の心身の発達と栄養	幼児期の間食の意義について理解する。幼児食の実習
3	幼児期の心身の発達と栄養	幼児期の食生活上の問題と健康への対応を理解し指導法を考える。
4	学童期・思春期の心身の発達と栄養，生涯発達	学童期・思春期の心身の発達，学童期の栄養の問題を理解する。学校給食の目標，栄養管理について理解する。
5	食育について	食育基本法について学ぶ。保育所・幼稚園における食育の目標，内容について理解する。
6	食育について	保育所における食育計画の立て方（計画・実施・評価・改善）を理解する。
7	食育について	保育所における食育の実際，食育のための環境について理解する。
8	食育について	食育推進のための保護者・地域との連携を理解し，保護者に向けての食育便りを作成することができる。
9	家庭における食事と栄養	家庭の食事と栄養の特徴，家庭の食生活をとりまく現状と課題，保育所・地域と家庭との連携を理解する。
10	食品と食の安全	食品の選び方，食の安全性について理解する。
11	施設における食事と栄養	児童福祉施設の給食，保育所の給食の役割・問題点について理解する。
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーのある子どもへの対応について理解する。
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	慢性疾患，肥満症，糖尿病の子どもへの対応について理解する。
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	障害のある子どもの栄養について学ぶ。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき，その成果が具体的に説明できる。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと音楽Ⅲ		科目ナンバリング	YS_S23017
担当者氏名	立本 千寿子、中條 裕子、西本 由香、前北 恵美、中村 真紀子、津田 安紀子、佐藤 亜衣、津田 俊子			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》

ピアノ学習において一番大切なのは、日々の練習である。反復練習を怠らず行うことによって確実に進歩していくものである。本科目では、「こどもと音楽Ⅰ・Ⅱ」で学んだピアノ演奏技能の基礎を更に高め、子ども教育現場におけるあらゆる場面で使えるように、個々の進捗状況に合わせて、レパートリーの幅を広げていく。

《テキスト》

- ①うたのメルヘン
- ②ぴあのおってすばらしい
- ③ピアノ連弾ドラゴン「ショパン」 (以上、共同音楽出版社)

《参考図書》

その他楽譜等は、必要に応じて指示・配布する。

《授業の到達目標》

- 幼稚園教諭を目指す者としての必要なピアノ演奏能力を身につけることができる。
- 楽譜から音楽的な様々な事柄を読み取ることができる。
- 現場での行事等に使用できる楽曲を弾くことができる。
- 様々なリズムの知識と、それを表現する曲を演奏できる。

《授業時間外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分にいき、レパートリーを広げていく。

《成績評価の方法》

実技点(60%)、授業平常点(40%)で評価する。

《備考》

ML室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	I期授業内容の説明及びピアノ個人レッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(マーチ表現奏法)
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(スキップ表現奏法)
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ギャロップ表現奏法)
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ゆったり歩く表現奏法)
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ワルツ表現奏法)
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(かけっこ表現奏法)
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(バロック時代の小品)
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(古典派の小品)
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ブルグミュラーまたはソナチネ)
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ソナチネまたはソナタ)
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ロマン派の小品)
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(近現代の小品)
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	「こどもと音楽Ⅲ」の総まとめ、Ⅱ期「こどもと音楽Ⅳ」に向けての説明と指導。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと音楽Ⅳ	科目ナンバリング	YS_S23018
担当者氏名	立本 千寿子、中條 裕子、西本 由香、前北 恵美、中村 真紀子、津田 安紀子、佐藤 亜衣、津田 俊子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

「こどもと音楽Ⅲ」で学び得た技術を、現場においてどのように展開し使用するかを具体的に考えながら、楽曲を中心としたレッスンをを行う。編曲法も学び、ピアノ表現の可能性を探る。編曲の技術は、子どもに音楽指導する際にも重要なものとなる。このことを踏まえて、個人の進捗状況に合わせて実践的なレッスンをを行う。また、次年度(最終学年)の就職試験演奏課題に備えたレッスンも行う。

《テキスト》

- ①うたのメルヘン
- ②ぴあのおってすばらしい
- ③ピアノ連弾ドラゴン「ショパン」 (以上、共同音楽出版社)

《参考図書》

その他楽譜等は、必要に応じて指示・配布する。

《授業の到達目標》

- 幼稚園教諭を目指す者としての必要なピアノ演奏能力を身につけることができる。
- 楽譜から音楽的な様々な事柄を読み取ることができる。
- 現場での行事等に使用できる楽曲を弾くことができる。
- 様々なリズムの知識と、それを表現する曲を演奏できる。

《授業時間外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、日々の練習の積み重ねである。反復練習を十分に行い、レパートリーを広げていく。

《成績評価の方法》

実技点(60%)、授業平常点(40%)で評価する。

《備考》

ML室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	Ⅱ期授業内容の説明及びピアノ個人レッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(メロディー編曲法)
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(伴奏形編曲法)
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(装飾を使用した編曲法)
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(和音変化による編曲法)
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(リズム変化による編曲法)
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(音域と調性の考え方)
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ソナチネの緩叙楽章)
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ソナタの緩叙楽章)
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(バロックの楽曲)
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(古典派の楽曲)
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ロマン派の楽曲)
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(研究発表リハーサル)
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	「こどもと音楽Ⅳ」の総まとめ。

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと造形Ⅲ	科目ナンバリング	YS_S23020
担当者氏名	田中 正彦、満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

折り紙、ペーパークラフトなど紙を使った造形の演習を行ない、形を見る目を養い、造形の楽しさを伝える。子ども達の好奇心と意欲を刺激するための表現力と発想力を養う。個々の作品制作に加えて、壁面や空間の構成、展示など社会環境の中での造形表現について学び、これらを総合的に体験するワークショップを企画する。

《授業の到達目標》

紙の素材としての特徴を理解し、折る、曲げる、切る、貼るなどの技術を身につける
 紙を利用した表現の幅を広げる
 環境の中での造形と構成を考慮することができる
 ワークショップの企画ができる

《成績評価の方法》

作品などの提出物により成績評価を行う。100%分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

なし

《参考図書》

空間・壁面構成と立体工作のアイデア 学校を飾ろうよ (学陽書房)
 イタリア/レージョ・エミリア市の幼児教育実践録 子どもたちの100の言葉 (学研)
 ダンボール&ポリ袋であそぼう (世界文化社)

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
 作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	折り紙1	授業概要説明、折り紙のレクチャー
2	折り紙2	折り図の読み方
3	折り紙3	季節の行事の種類を提示します。テーマにあった折り紙の選定と制作
4	平面構成1	テーマにあった企画を考え、パーツを作成する
5	平面構成2	壁面の制作をすすめる
6	平面構成3	壁面完成、合評
7	立体造形1	ペーパークラフトのレクチャー
8	立体造形2	企画にそったペーパークラフトの選定と制作
9	立体造形3	展示用ペーパークラフトの制作を進める
10	空間構成1	展示の内容を提示します。各自テーマを選び企画案作り
11	空間構成2	展示空間を構成する、合評
12	ワークショップの企画	グループ別に企画案にそって制作
13	ワークショップの準備	分担し制作をすすめる
14	ワークショップ発表1	グループ別ワークショップ発表(前半)
15	ワークショップ発表2	グループ別ワークショップ発表(後半)

《専門教育科目 専門科目Ⅰ群》

科目名	こどもと造形Ⅳ	科目ナンバリング	YS_S23021
担当者氏名	田中 正彦		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

ペーパークラフトの設計と制作を行う。組み立てる、さわる、描くなどの作業を通して3次元の形状を理解する。立体と展開図の対応を理解し、展開図への書き込みや部品の追加ができる。組み立て作業の技術を学び、作業手順を考えることができる。紙の特性を活かした表現ができるようにする。設計時にパソコンを利用します。

《テキスト》

なし

《参考図書》

《授業の到達目標》

パソコンを利用したペーパークラフトの設計と制作の演習を行う。3次元の形状とその表現方法、展開図との対応を理解する。紙の特性を活かした立体造形ができるようになる。

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《成績評価の方法》

作品など提出物により成績評価を行う。100%
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

資料等の一部はWebページで公開しています。
<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	作品制作におけるパソコンの利用
2	ドローソフトの使い方	描く、塗る、配置、変形
3	平面作品を描く	パソコンを利用したイラストの作成
4	部品を作る	平面構成で使用する部品の設計
5	部品を使う	パーツを印刷し、作品を構成する
6	展開図を組み立てる	サンプルを使って設計制作の流れを知る
7	展開図の理解	組み立てたものに着色し、展開図との対応を考える
8	展開図の着色	完成形を考えながら展開図に着色する
9	展開図の修正	部品の追加、応用を考える
10	組み立て、評価	展開図を組み立て、互いに評価する
11	作品制作1	資料収集、作品テーマ決定
12	作品制作2	全体の形をイメージし制作手順を考える
13	作品制作3	全体から部分へと制作を進める
14	作品制作4	試作、着色
15	作品制作5	作品完成、発表

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもと数	科目ナンバリング	YS_L23023
担当者氏名	田中 正彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

生活の中でみられるいろいろな量を比べることを題材とし、数や量の種類と意味を理解し、意味に応じた処理や計算方法を考える。
 平面図形・立体図形の計量・作図をとおして 図形の性質を発見したり、図を使って考える方法を学ぶ。
 問題解決の場面において、数や図形を利用したり、 数学的視点で捉えることを試みる。

《授業の到達目標》

こどもの発達段階に応じた数や図形の意味と数学的な概念との関連について理解し、 保育者として数量概念、図形概念の基礎作りを行うための数学的な考え方を習得すること。
 数、量の種類と意味を知り、生活の中で数を使った考え方ができること。
 四則演算の意味と法則を理解すること。
 図形の性質を知り、作図や図形の計量、操作ができること。

《成績評価の方法》

レポート等の提出物、授業中に行う小テストにより評価する(100%)。
 提出物にはコメントを付して返却する。
 からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

なし

《参考図書》

遠山啓「親と子で学ぶ算数入門」(SBクリエイティブ,2014)
 野崎昭弘他「意味がわかれば数学の風景が見えてくる」(ベレ出版,2011)

《授業時間外学習》

授業内容のふりかえり、資料などの整理。
 生活のなかにある数や図形について考える。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	なぜ算数・数学を学ぶのか
2	算数・数学の内容	小中高における算数・数学の内容と関連
3	数のしくみ	記数法、数とことば
4	数と演算の意味	数と量、分離量、連続量、四則演算の意味
5	比較と計量	比較方法、長さ、面積
6	割合	かけ算、割り算、分数
7	立体図形	見取り図、直方体、組み合わせてできる形
8	展開図	直方体の展開図、箱の折り紙
9	正多面体	頂点、辺、面の数と形
10	座標と長さ	座標や長さを使って考える
11	図形の性質	角度、平行、移動
12	投影図	平行投影、透視投影
13	投影図を使って考える	投影図と展開図の利用
14	展開図を使って考える	投影図と展開図の応用
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

この演習では、皆さんと「論理的に考える」つまり「言葉を正しく運用する」ことを学んでいきたい。具体的には『論理トレーニング』という教科書を輪読し、問題演習を積み重ねていくことになろう。別の言い方をすれば、ある事柄を社会科学的に学んだり、考えたりするというのとはどういうことなのかを体験してもらうことになる。野球で言えば一番基礎的なバットやボールの握り方を学ぶ場だと考えていただきたい。

《授業の到達目標》

○基礎的な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。

《テキスト》

野矢茂樹『新版論理トレーニング』（産業図書）2006年

《参考図書》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

毎回、テキスト中の練習問題数問を宿題とするので、それを次の時間までに解いて提出してもらう。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（50%）、レポート（50%）である。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

せっかく大学に入ったのだから、科学的「知」の「考え方のくせ」くらい身に付けてみるのもよいと思う。これを身に付けるだけでも、身の回りの見え方が変わってくるはずである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	演習の進め方の解説、参加メンバーの確認
2	論理トレーニング	序論 論理とは何か
3	論理トレーニング	第1章 さまざまな接続関係（1）
4	論理トレーニング	第1章 さまざまな接続関係（2）
5	論理トレーニング	第1章 さまざまな接続関係（3）
6	論理トレーニング	第2章 接続の構造（1）
7	論理トレーニング	第2章 接続の構造（2）
8	論理トレーニング	まとめと復習
9	論理トレーニング	第3章 議論の組み立て（1）
10	論理トレーニング	第3章 議論の組み立て（2）
11	論理トレーニング	第3章 議論の組み立て（3）
12	論理トレーニング	まとめと復習
13	論理トレーニング	第4章 論証の構造と評価（1）
14	論理トレーニング	第4章 論証の構造と評価（2）
15	論理トレーニング	まとめと復習

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	田中 正彦		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

折り紙、ペーパークラフトなどさまざまな紙工作を行います。
制作スキルの習得、表現力のトレーニングをします。

《テキスト》

なし

《参考図書》

《授業の到達目標》

折り紙、ペーパークラフトなど紙工作の楽しさを知る
折りの性質の理解
立体形状の理解

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
できるだけ多くのもの（実物）を観察すること。

《成績評価の方法》

作品、レポートなどの提出物 100%
提出物はコメントを付して返却する。
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

資料等の一部はWebページで公開しています。
<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	演習の目的
2	平面の造形1	平面のペーパークラフト制作1
3	平面の造形2	平面のペーパークラフト制作2
4	平面の造形3	平面のペーパークラフト制作3
5	半立体の造形1	半立体のペーパークラフト制作1
6	半立体の造形2	半立体のペーパークラフト制作2
7	半立体の造形3	半立体のペーパークラフト制作3
8	半立体の造形4	半立体のペーパークラフト制作4
9	立体の造形1	立体のペーパークラフト制作1
10	立体の造形2	立体のペーパークラフト制作2
11	立体の造形3	立体のペーパークラフト制作3
12	立体の造形4	立体のペーパークラフト制作4
13	造形作品の利用1	場面に応じた作品を考える1
14	造形作品の利用2	場面に応じた作品を考える2
15	造形作品の利用3	場面に応じた作品を考える3

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

子どもと家庭の福祉

社会福祉領域の一分野である児童福祉について、現代社会に生きる子ども、支援を必要とする子どもをキーワードにして、様々な課題をとらえ考察する。新聞、映画、小説等を資料として用い、受講生間の意見交換を中心にして、視野を広めるとともに、知識を深める。

《テキスト》

プリント等の配布、視聴覚教材の利用

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 社会福祉の専門性について説明することができる。
- 子どもが有する様々な課題（貧困、虐待、障害等）に関する資料をもとに、受講生間で意見交換し、問題の所在を明らかにできる。
- こども福祉卒業演習に向けて、各自研究テーマを選定することができるように、自らの関心について探究することができる。

《授業時間外学習》

子どもに関する新聞報道等には関心を持ち、現状を把握するよう努めてください。

《成績評価の方法》

授業への参加態度と意欲（50%）

課題の提出：授業中に提出したレポート等は返却し、次への課題解決に役立たせる機会とする。（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本演習にねらいと進め方、到達目標と評価について説明する。
2	社会福祉と専門性 - 1	社会福祉という用語について学習し、理解する。
3	社会福祉と専門性 - 2	社会福祉分野の仕事と保育士資格について理解する。
4	社会福祉と専門性 - 3	保育士資格の専門性について理解する。
5	社会福祉と専門性 - 4	「社会福祉と専門性」について、討議により受講生間で学びを共有する。
6	子どもと家庭の福祉 - 1	社会的養護の必要性について理解する。
7	子どもと家庭の福祉 - 2	経済的支援について理解する。
8	子どもと家庭の福祉 - 3	障害のある子どもへの支援について理解する。
9	子どもと家庭の福祉 - 4	「子どもと家庭の福祉」について、討議により受講生間で学びを共有する。
10	子どもを取り巻く環境 - 1	社会的に弱い立場とワーキングプア、貧困の世代間連鎖について理解する。
11	子どもを取り巻く環境 - 2	貧困家庭における暴力、虐待とDVについて理解する。
12	子どもを取り巻く環境 - 3	学歴社会と教育、多様化する価値観、ワークライフバランスについて理解する。
13	意見交換と成果発表 - 1	授業を振り返り、受講の成果発表をする。
14	意見交換と成果発表 - 2	授業を振り返り、受講の成果発表をする。
15	意見交換と成果発表 - 3	受講の成果発表を踏まえ、こども福祉専門演習Ⅱに向けて研究テーマを選定する。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

こどもとこどもの成長に関わる諸問題を心理学の観点から検討する。受講学生による文献選択⇒精読⇒まとめ⇒発表⇒討議のプロセスを通して授業を展開する。

《テキスト》

教科書は使用しない。教員が用意した文献をテキストとして利用する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ① こどもの心理学に関する文献を精読できる。
- ② こどもの心理についての理解を深める。
- ③ こどもの心理について問題意識を持つ。
- ④ こどもの心理について問いを立てられる。

《授業時間外学習》

授業時間内には学生個々の発表とディスカッションを行うので、文献の精読は授業時間外に行わなければならない。

《成績評価の方法》

授業に対して積極的に取り組み態度への評価 50%。
 発表内容への評価 50%。
 学生の発表に対してコメントをすることで、こまめにフィードバックを行う。

《備考》

無断欠席を厳しく禁ずる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や発表資料の作成の仕方などについて説明する。
2	文献の精読と資料作成	教員が取り上げた全員共通のテキストを用いて、発表資料作成の練習を行う。
3	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
4	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
5	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
6	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
7	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
8	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
9	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
10	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
11	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
12	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
13	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
14	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
15	まとめと展望	自分自身が調べて理解したこと、他の学生の発表を聞いて理解したことをまとめ、これから追及していきたいテーマを絞り込んでいく。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

展示、体験、制作の3つの構成についての研究。はじめに素材とどのように出会い、感じるか、その後自分なりに関わりを展開していく事や積極的な気持ちを持続させる事の大切さについて学びます。「素材との出会い展、造形発見展、オープスタジオ等」の企画書を作成する。

《テキスト》

毎時間ごとに計画書と参考資料を配布する。

《参考図書》

図工室にいこう～こどもがつくる楽しい時間
美術手帖編集部・編 東京都図画工作研究会

《授業の到達目標》

道具・材料の取り扱いを知る。
制作する上で伸びやかに作業する環境を学ぶ。
作品の展示方法と保存の仕方について学ぶ。

《授業時間外学習》

予習の方法/毎回使用する素材や材料について研究、収集する。
復習の方法/授業内容を再確認し、随時質疑応答を行う。

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。

《備考》

授業のはじめに出席をとります。その後その日の資料に基づき説明に入ります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	材料、道具の取り扱いについて。
2	イメージを広げる①紙	紙をつなげながら、考え、感じとり、活動する。
3	イメージを広げる②絵具	からだで感受する色やかたちのリズム表現。
4	イメージを広げる③のり	表現欲を刺激するのり絵具で制作。
5	イメージを広げる④石	ホンモノそっくりの石を作ってみる。
6	イメージを広げる⑤模写	名画を素材に鑑賞・表現を学ぶ。
7	イメージを広げる⑥模写	仕上げ。
8	イメージを広げる⑦大作	つづきの国の道づくり企画案。
9	イメージを広げる⑧大作	つづきの国の道づくり制作。
10	体験① イメージを広げる④石	屋外に作品を持ち出し遊びを考える。
11	体験② イメージを広げる⑤模写	図書館（絵本コーナー）にいこう。
12	体験③ スケッチ大会	画用紙と色鉛筆を持ち、学内周辺にでかけ風景をスケッチする。
13	展示① マイアートスペース	全ての作品の仕上げとレイアウト企画。
14	展示② マイアートスペース	自分の卓上美術館。
15	まとめ	作品の保存方法を学ぶ。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力		

《授業の概要》

ジャン・ジャック・ルソーの『エミール』研究
 今から約250年前に書かれたルソーの『エミール』第1, 2, 3編を解説し、その教育論の現代的意味について考察する。ルソーは教育とは「人間を作る術」と述べており、教育の目的と対象、とりわけ第1編の5歳未満の教育について詳しく考察し、こども本位の教育とは何かを考える。

《授業の到達目標》

- 1 ルソーの人間観を理解する。
- 2 『エミール』の第3編までを理解し、その教育論を説明できる。
- 3 ゼミで『エミール』教育論を述べ、人間教育の意味を説明でき、自分の考察を述べるができる。

《成績評価の方法》

レポート (80%)
 授業参加意欲 (20%)
 別紙にコメントを付して渡す。

《テキスト》

ジャン・ジャック・ルソー『エミール』(上)(中)(下)
 岩波書店

《参考図書》

福田敏一著『ルソー』岩波現代文庫
 林達夫『ルソー』レグルス文庫
 ルソー『告白』岩波書店
 ルソー『社会契約論』岩波書店
 長尾十三二 福田弘『ペスタロッチ』清水書院

《授業時間外学習》

参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人間ルソー	ルソーの生涯を年代を辿ってみる。幼少期、青年期 壮年期 晩年の特徴を解説する。
2	第1編幼年期(1)	序論 5歳になるまでの理想の教育を述べる。
3	第1編幼年期(2)	序論 5歳になるまでの理想の教育を述べる。
4	第1編幼年期(3)	序論 5歳になるまでの理想の教育を述べる。
5	第1編幼年期(4)	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
6	第2編幼少年期(1)	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
7	第2編幼少年期(2)	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
8	第2編幼少年期(3)	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
9	第2編幼少年期(4)	エミールが5歳から12歳になるまでの教育を述べる
10	第3編少年期(1)	エミールが12歳から15歳になるまでの教育を述べる。
11	第3編少年期(2)	エミールが12歳から15歳になるまでの教育を述べる。
12	第3編少年期(3)	エミールが12歳から15歳になるまでの教育を述べる。
13	第3編少年期(4)	エミールが12歳から15歳になるまでの教育を述べる。
14	まとめと考察(1)	幼年期教育論について各自発表と議論
15	まとめと考察(2)	幼少年期 少年期の教育論について各自発表と議論

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

教育・保育実践に関する様々な事象や課題について調査・研究を行い、受講生のディスカッションを交えながら検討、考察する。

《テキスト》

適宜指示する。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 保育・教育実践に関する調査・研究の方法を知る。
- 受講生の意見交換を通して、様々な考え方に触れる。
- 設定した課題に対して検討を加え、自分なりの考察ができる。

《授業時間外学習》

常に教育・保育に関する話題に関心を寄せ、自身が学びを深めたいテーマ、課題を明確にできるよう努めること。

《成績評価の方法》

授業への参加態度及び提出課題を総合的に評価する。100%課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の方法を確認する
2	教育・保育に関する課題探究と検討	教育・保育実践に関する事象の中からテーマを選定する。
3	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
4	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
5	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
6	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
7	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
8	教育・保育に関する課題探究と検討	教育・保育実践に関する事象の中からテーマを選定する。
9	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
10	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
11	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
12	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
13	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
14	演習のまとめ	学習内容を総括する
15	演習のまとめ	学習内容を総括する

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S13001
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

乳幼児を取り巻く様々な音楽について広く知り、音楽が乳幼児に寄与する可能性について様々な視点から探求する。保育現場で実践することができるテーマを取り上げ、座学・演習・各自の文献等による調査・学生間の意見交換等を取り入れながら授業を展開する。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 乳幼児を取り巻く様々な音楽について理解できる。
- (2) 音楽が乳幼児に寄与する可能性について課題を設定し、自ら探求することで、考察をすることができる。
- (3) 少人数での学びの形態や意見交換を通して、人の意見を受け入れ、自分の意見も表現することができる。

《授業時間外学習》

- ・自分の生活の中で何気なく触れている音楽に改めて耳を傾ける時間を持つこと。
- ・授業で出された課題は、各自文献等で調べて、次回の授業までに資料としてまとめてくること。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)についてはレポート及び作品、(2)についてはレポート、(3)については授業への参加態度と意欲で評価する。評価の割合は、レポート50%、作品10%、授業への参加態度と意欲40%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。評価は、授業内においてコメントをフィードバックする。

《備考》

ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本科目の概要・目標等の確認
2	乳幼児と音楽の聴取	サウンドスケープー大学構内での音探しー
3	文化と音楽 (1)	日本における子どもの音楽
4	文化と音楽 (2)	諸外国における子どもの音楽
5	保育現場における音楽 (1)	四季と音楽
6	保育現場における音楽 (2)	園生活と音楽
7	保育現場における音楽 (3)	園行事と音楽
8	乳幼児の心と音楽	音楽が乳幼児に与える心的働きと役割
9	イメージと音楽 (1)	音づくりー素敵な音・心が落ち着く音・乳幼児を惹きつける音 等ー
10	イメージと音楽 (2)	音絵ー音楽を色で表現する・音楽を線や図で表現する・音楽を絵で表現するー
11	乳幼児に関する音楽の可能性の検討 (1)	選定したテーマに基づいた調査・研究 (1)
12	乳幼児に関する音楽の可能性の検討 (2)	選定したテーマに基づいた調査・研究 (2)
13	乳幼児に関する音楽の可能性の検討 (3)	選定したテーマに基づいた調査・研究 (3)
14	個別成果発表 (1)	個人による研究課題の発表と意見交換
15	個別成果発表 (2)	総まとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

この演習では、専門演習Ⅰにつづき、『論理トレーニング』の第3部「演繹」を中心に、論理的な言語運用能力を鍛えていくつもりである。いままでの演習が広い意味での論理をとらえる練習であったとすると、これからはかなり厳密な意味での論理の運用について学んでいくことになる。

《テキスト》

野矢茂樹『新版論理トレーニング』（産業図書）2006年

《参考図書》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《授業の到達目標》

○ある程度高度な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。

《授業時間外学習》

毎回、テキスト中の練習問題数問を宿題とするので、それを次の時間までに解いて提出してもらう。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（50%）、レポート（50%）である。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

・文字通り理屈っぽい演習です。理屈がお好きであれば是非ご参加下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	演習の進め方の解説、参加メンバーの確認
2	論理トレーニング	第4章 論証の構造と評価（1）
3	論理トレーニング	第4章 論証の構造と評価（2）
4	論理トレーニング	第5章 演繹と推測（1）
5	論理トレーニング	第5章 演繹と推測（2）
6	論理トレーニング	まとめと復習
7	論理トレーニング	第6章 価値評価（1）
8	論理トレーニング	第6章 価値評価（2）
9	論理トレーニング	第6章 価値評価（3）
10	論理トレーニング	第7章 否定（1）
11	論理トレーニング	第7章 否定（2）
12	論理トレーニング	第8章 条件構造（1）
13	論理トレーニング	第8章 条件構造（2）
14	論理トレーニング	第8章 条件構造（3）
15	論理トレーニング	まとめと復習

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	田中 正彦		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

これまでに学んだ技術を組み合わせた紙工作や立体造形を行う。
 展示、ワークショップなどにおける、造形作品の利用について考える。
 内容によってはパソコンを利用します。

《テキスト》

なし

《参考図書》

《授業の到達目標》

造形の楽しさを知り、その伝え方を考えることができる
 制作の工程について考えることができる
 デザイン的な観点から作品を見ることができる

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
 できるだけ多くのもの（実物）を観察すること。

《成績評価の方法》

作品、レポートなどの提出物 100%
 提出物はコメントを付して返却する。
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

資料等の一部はWebページで公開しています。
<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	演習の目的
2	デザイン1	デザインとは、デザインの目的と評価
3	形とデザイン1	目的に合った形を作る1
4	形とデザイン2	目的に合った形を作る2
5	形とデザイン3	目的に合った形を作る3
6	デザイン2	制作の工程を考える
7	デザインの進め方1	目的、制限事項、資料収集
8	デザインの進め方2	試作、評価、改良
9	デザインの進め方3	選択、記録
10	デザイン3	場面に応じたデザイン
11	造形作品の利用1	場面に応じた作品を考える1
12	造形作品の利用2	場面に応じた作品を考える2
13	造形作品の利用3	場面に応じた作品を考える3
14	造形作品の利用4	場面に応じた作品を考える4
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

子どもの家庭と福祉

本演習Ⅰを踏まえて、実際のサービス提供の場を訪問し、保育士資格の専門性について考察する。

《テキスト》

プリントの配布，視聴覚教材の利用

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

○机上の学習と受講生間の意見交換を踏まえて，児童福祉施設，関連機関等を訪問して，自ら構築した「考え」を検証する。

○保育士資格の専門性の具体的役割を明確にし，支援を必要とする子どもへの具体的支援方法について，文章にして説明することができる。

《授業時間外学習》

子どもに関する新聞報道等には関心を持ち，現状を把握するよう努めてください。

《成績評価の方法》

授業への参加態度と意欲（50%）

課題の提出：授業中に提出したレポート等は返却し，次の課題解決に役立たせる（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本演習のねらいと進め方，到達目標と評価について説明する。なお，本演習は次年度のこども福祉卒業演習と連動していることについて理解する。
2	実際の場の訪問 - 1	各受講生が想定するサービス提供の訪問場所について話し合いをする。
3	実際の場の訪問 - 2	具体的計画と訪問に関する手続等を行う。
4	訪問に向けて - 1	訪問の目的について話し合い，綿密な訪問計画を立てる。
5	訪問に向けて - 2	訪問により何をどこまで明らかにしたいのか等について話し合う。
6	訪問 - 1	訪問を実行する。
7	訪問 - 2	訪問を実行する。
8	訪問を終えて - 1	各自訪問に関しての報告の準備をする。
9	訪問を終えて - 2	訪問に関しての報告会を開催する。
10	文献学習 - 1	訪問の経験を，学びとして深めるために文献学習を行う。
11	文献学習 - 2	訪問の経験を，学びとして深めるために文献学習を行う。
12	卒業演習に向けて - 1	こども卒業演習に向けて，さらに深めたい研究テーマを定めるために受講生間で意見交換をする。
13	文献学習（実践の場の訪問） - 1	受講生の研究テーマ設定に従い，文献学習を進める者，再度異なる施設，機関等を訪問する者に分かれて学習計画を作成する。
14	文献学習（実践の場の訪問） -	受講生の研究テーマ設定に従い，文献学習を進める者，再度異なる施設，機関等を訪問する者に分かれて学習計画を実践する。
15	卒業演習に向けて - 2	1年間の学びを踏まえ，選定した研究テーマにたどり着いた理由，さらに卒業演習において学びたいことについてまとめる。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

こどもとこどもの成長に関わる諸問題を心理学の観点から検討する。受講学生による文献精読⇒まとめ⇒発表⇒討議のプロセスを通して授業を展開する。

《テキスト》

教科書は使用しない。受講学生自身が興味・関心を持った文献がテキストとなる

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①こどもの心理についての理解を深める。
- ②こどもの心理について問題意識を持つ。
- ③こどもの心理について問いを立てられる。
- ④こどもの心理について立てた問いを解くための筋道を思い描くことができる。

《授業時間外学習》

授業時間内には学生個々の発表とディスカッションを行うので、文献の精読は授業時間外に行わなければならない。

《成績評価の方法》

授業に対して積極的に取り組み態度への評価 50%。
 発表内容への評価 50%。
 学生の発表に対してコメントをすることで、こまめにフィードバックを行う。

《備考》

無断欠席を厳しく禁ずる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方について説明する。受講学生が関心をもっているテーマについて討議し、問題意識を高める。
2	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
3	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
4	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
5	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
6	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
7	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
8	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
9	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
10	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
11	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
12	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
13	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
14	個別発表と討論	担当学生が発表を行い、その発表を受けて受講学生全員で討議する。
15	まとめと展望	自分自身が調べて理解したこと、他の学生の発表を聞いて理解したことをまとめる。4年次の卒業演習で取り上げる研究テーマの目星をつける。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

専門演習Ⅰの内容に基づき、実際に指導案を作成し学内、学外で実践する。ひとりまたは複数のメンバーと関わる課外の制作・研究活動について、各自その計画を報告し、講評をうけます。

《テキスト》

毎時間ごとに計画書と参考資料を配布する。

《参考図書》

作ってあそぶお店さんごっこー身近な素材でアイデア工作ーアド・グリーン企画出版

《授業の到達目標》

ごっこあそびを企画する。
 作品を作る、並べて売る、買って使う喜びや面白さ、嬉しさを経験する。

《授業時間外学習》

予習の方法/毎回使用する素材や材料について研究、収集する。復習の方法/授業内容を再確認し、随時質疑応答を行う。

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。

《備考》

授業のはじめに出席をとります。その後その日の資料に基づき説明に入ります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	材料・道具の扱い方。
2	企画制作① ケーキ&お菓子屋さん	布ケーキ、クッキー、ビスケット、小麦粉粘土等制作。
3	企画制作② 魚屋さん	魚、カニ、エビ、イカ、たこ等制作。
4	企画制作③ お弁当	サンドイッチ、おにぎり、洋食、和食等制作。
5	企画制作④ アクセサリ	指輪、プレスレット、ブローチ等制作。
6	企画制作⑤ 楽器屋さん	たいこ、カスタネット、マラカス等制作。
7	企画制作⑥ ゲーム屋さん	輪投げ、ボーリング、玉入れ等制作
8	グループ発表準備①	6グループに分かれ企画制作をそれぞれ選びごっこ遊びを展開する。
9	グループ発表準備②	ルール作り、看板、ユニホーム、商品陳列等制作。
10	グループ発表① ケーキ&お菓子屋さん	グループ発表
11	グループ発表② 魚屋さん	グループ発表
12	グループ発表③ お弁当	グループ発表
13	グループ発表④ アクセサリ	グループ発表
14	グループ発表⑤ 楽器屋さん	グループ発表
15	グループ発表 ゲーム屋さん	グループ発表

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力		

《授業の概要》

ジャン・ジャック・ルソーの『エミール』研究
 今から約250年前に書かれたルソーの『エミール』第4、5編を解説し、その教育論の現代的意味について考察する。第4、5編は道徳と倫理そして結婚観についてルソーの考え方を議論する。

《授業の到達目標》

- 1 ルソーの人間観を理解する。
- 2 『エミール』の第4編、第5編を理解し、その教育論を説明できる。
- 3 ゼミで『エミール』教育論を述べ、人間教育の意味を説明できる。

《成績評価の方法》

レポート (80%)
 授業参加意欲 (20%)
 別紙にコメントを付して渡す。

《テキスト》

ジャン・ジャック・ルソーの『エミール』(中)(下) 岩波書店

《参考図書》

福田敏一著『ルソー』岩波現代文庫
 林達夫『ルソー』レグルス文庫
 ルソー『告白』岩波書店
 長尾十三二 福田弘『ペスタロッチ』清水書院

《授業時間外学習》

参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論 宗教観について
2	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論 宗教観について
3	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論 宗教観について
4	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論 宗教観について
5	『エミール』第4編	エミール15歳から20歳までの教育論 宗教観について
6	『エミール』第5編	エミール15歳から20歳までの教育論 宗教観について
7	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観 政治についての考え方
8	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観 政治についての考え方
9	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観 政治についての考え方
10	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観 政治についての考え方
11	『エミール』第5編	20歳以降のエミールの女性観 政治についての考え方
12	ルソーの教育論の内容	ルソーの教育目的と対象について
13	ルソーの教育論の特色	社会の中に生きる自然人とはなにか
14	人間ルソーの思想(1)	ルソーの人間哲学 『告白』を取り上げる
15	人間ルソーの思想(2)	ルソーの社会思想『社会契約論』を取り上げる

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

教育・保育実践に関する様々な事象や課題について調査・研究を行い、受講生のディスカッションを交えながら検討、考察する。

《テキスト》

適宜指示する。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 主体的な学びの方法を体得し、課題追究する。
- 受講生の意見交換を通して、幅広い考察の視点を獲得する。
- 設定した課題に対して検討を加え、自分なりの考察ができる。

《授業時間外学習》

常に教育・保育に関する話題に関心を寄せ、自身が学びを深めたいテーマ、課題を明確にできるよう努めること。

《成績評価の方法》

授業への参加態度及び提出課題を総合的に評価する。(100%)
 課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の方法を確認する。
2	教育・保育に関する課題探究と検討	教育・保育実践に関する事象の中からテーマを選定する。
3	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
4	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
5	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
6	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
7	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
8	教育・保育に関する課題探究と検討	教育・保育実践に関する事象の中からテーマを選定する。
9	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
10	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
11	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
12	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
13	演習の成果報告	こども福祉専門演習ⅠおよびⅡにおける学習成果を発表する。
14	演習の成果報告	こども福祉専門演習ⅠおよびⅡにおける学習成果を発表する。
15	演習のまとめ	学習の総括を行う

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S13002
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

乳幼児や保育に関連する音楽の題材に関して、実際に演習を通して修得し、その意義等について文献を用いた考察を行う。その上で、絵本を用いた音楽表現の創造をグループで行い、発表する。また、保育現場で実践できる音楽を用いた保育内容を企画立案し、指導案作成と模擬保育を行うことを通して、保育者としての音楽への理解を深める。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

(1) 保育に関連する音楽の題材に関して知識を得ている。
 (2) 絵本を用いた音楽表現についてグループで協調性をもって取り組み創造する。(3) 音楽を用いた保育内容を企画立案し、指導案を作成できる。(4) 模擬保育を行い、自らの課題を見出し、他学生の模擬保育に対して専門的な視点を持って意見を述べるができる。

《授業時間外学習》

・音楽を乳幼児の保育・教育や支援で活用する際の題材について、日常生活の中で研究心を持っておくこと。
 ・授業で出された課題は、必ず指定期日までに仕上げてくること。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)についてはレポート、(2)は作品の発表と参加態度・意欲、(3)はレポート、(4)は発表と参加態度・意欲で評価する。評価の割合は、レポート20%、発表40%、指導案20%、授業への参加態度・意欲20%で評価する。授業における評価は、個人ごとにコメントをフィードバックする。

《備考》

ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本科目の概要・目標等の確認
2	保育に関連する音楽の題材に関する研究(1)	昔から伝わる音楽表現
3	保育に関連する音楽の題材に関する研究(2)	現代の音楽表現
4	音楽表現の創造(1)	音絵本の表現制作(1)－絵本を選択する(図書館)－
5	音楽表現の創造(2)	音絵本の表現制作(2)－音作りを検討する－
6	音楽表現の創造(3)	音絵本の表現制作(3)－練習を行う－
7	音楽表現の創造(4)	音絵本の発表
8	保育実践における音楽の方法に関する研究(1)	音楽を用いた保育内容の研究(1)
9	保育実践における音楽の方法に関する研究(2)	音楽を用いた保育内容の研究(2)
10	保育実践における音楽の方法に関する研究(3)	指導案の作成(1)
11	保育実践における音楽の方法に関する研究(4)	指導案の作成(2)
12	保育実践における音楽の方法に関する研究(5)	模擬保育と意見交換(1)
13	保育実践における音楽の方法に関する研究(6)	模擬保育と意見交換(2)
14	保育者としての音楽の捉え方に関する考察	文献を用いて理解を深化させ、まとめる。
15	まとめと今後への展望	総まとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	教師・保育者論	科目ナンバリング	YS_L13005
担当者氏名	黒崎 令子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

学生が目指す保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。また、1年生から積み重ねてきた保育に関する知識を深め、理論や実践からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。さらに、学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用し、自らの望ましい保育者像を構想する。

《授業の到達目標》

- 教職の意義と保育者の役割を理解することが出来る。
- 教職（保育）に対する自らの適性を探求し、保育実践者としての意欲を高めることができる。
- 保育者像を形成することの意義を理解する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討議や発表などへの参加・態度・成果 20%
- (2) レポート課題等の提出物 30%
- (3) 筆記テスト 50%

《テキスト》

『保育者論』上月素子編著 あいり出版

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 2008
 『保育所保育指針』 厚生労働省 2008
 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領2014年フレーベル館
 その他、授業中に随時紹介する。』

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習する。
- (2) 出題課題について調べたり、まとめたりする。
- (3) 授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめる。

《備考》

・幼稚園・保育所などに関する情報(特に教職)を常に意識して収集する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 目指す保育者像	授業の進め方・評価方法などのガイダンス 現時点で考え、目指す保育者像を明確にすることができる。
2	保育者を目指す	なぜ保育者を目指すかを問い直し、各自の努力目標を具現化することにより、学びを深める。
3	保育職とは	保育職に求められる専門性と人間性について学ぶ。
4	保育者の一日	子どもも保育者も主体的に生きる保育の創造について、意見交流を行う。
5	保育者の専門性①	幼稚園における保育者の役割について理解を深める。
6	保育者の専門性②	保育者の実践活動を通して、保育者の専門性について深く学ぶ。
7	保育者の安全危機管理①	園内外の安全確保について学ぶ。
8	保育者の安全危機管理②	災害等に対する備えについて深く学ぶ。
9	法と保育者	法的・制度的側面から保育者がどのような存在か、そしてどうあるべきかについて理解し、法律上、制度上の位置づけや意味づけを知る。
10	法と保育者②	保育者の研修は、職責遂行のため、保育者の権利と位置づけられていることを理解する。
11	保育の歴史と保育者像①	海外で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
12	保育の歴史と保育者像②	日本で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
13	保育者への学習課題	討議「保育者の資質」
14	現代社会の課題と保育者	本講義で学んできたことをもとに、子どもと親・園・社会とをつなぐ保育者に求められる役割について論じる。
15	学修のまとめ	これまでの学修内容と、得られた知見とその成果をまとめる。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	青年心理学	科目ナンバリング	YS_L23011
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

青年期は人の一生にわたる成長・発達の大きな節目となる発達段階である。重要な意味を持つ青年期の発達の特徴を、身体的・社会的・心理的側面から概観する。これまでに提起されてきた青年心理に関する諸説にふれながら、学生自身を含めた青年の心の在り方を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ①生涯発達の流れにおける青年期の位置づけを理解する。
- ②青年期の身体的・社会的・心理的特徴を理解する。
- ③青年心理学の基礎的用語の意味を正確に理解する。

《成績評価の方法》

授業時間内に課すレポートへの評価 50%。
 最終週に実施する筆記試験への評価 50%。
 レポートはコメントを付して返却する。
 質問等には、授業終了後やオフィスアワーに対応する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回配布するプリントを用いて授業を進める。

《参考図書》

- 『エピソードでつかむ青年心理学』 大野久（編著）
 ミネルヴァ書房 2010
 『よくわかる青年心理学』 白井利明（編）
 ミネルヴァ書房 2006
 『やさしい青年心理学 〔新版〕』 白井利明・都築学・森陽子（著） 2012 有斐閣

《授業時間外学習》

参考図書として取り上げた図書をじっくり読み、青年心理の理解、そして自己理解を深めてもらいたい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	青年心理学への導入	青年の誕生そして青年心理学の誕生について、その歴史的経緯を学び、青年心理学への導入とする。
2	青年期の位置づけ	生涯発達の流れの中での青年期の位置づけ、そして青年期の重要性について学ぶ。
3	青年の体と心	青年期の身体発達の特徴を学び、身体発達が青年の心に与えるインパクトについて考える。
4	青年の内面世界	青年が経験する多様な感情に焦点をあて、青年の内面世界について考える。
5	アイデンティティの発達～その1	アイデンティティという概念が内包する意味を、さまざまな事例にふれながら学ぶ。
6	アイデンティティの発達～その2	アイデンティティ概念の広がり、そして多様なアイデンティティの在り方について学ぶ。
7	青年の恋愛～その1	青年の恋愛の特徴とされる「アイデンティティのための恋愛」について考える。
8	青年の恋愛～その2	恋愛と親密性という主題について考える。
9	青年の親子関係	青年期における親子関係の発達の变化を学ぶ。
10	青年の友人関係	青年にとって友人という存在がいかなる意味を持つのかを考える。
11	青年と学校	青年の発達にとって学校での学びがもつ意味を考える。
12	青年と社会	青年と社会との結びつきを、職業選択や労働を通して考える。
13	青年の心の問題～その1	青年の心の問題について、非行を中心に学ぶ。
14	青年の心の問題～その2	青年の心の問題について、ひきこもりを中心に学ぶ。
15	学習内容のまとめ	授業を通して学んだことの理解度を測定するために筆記試験を行う。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	YS_L23013
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、キーワードについての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目的とする。教育制度の意義や概要を学習するとともに、最近の教育問題や教育改革の動向を、学校制度・学校経営の視点から考察する。

《授業の到達目標》

○教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。○教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。○教育行政の仕組みや学校制度について理解している。○学校運営について理解している。○今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）20%
 ②課題の提出と完成度 20%
 ③定期試験 60%（持ち込み不可）
 ＊提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

授業中に指示する。

《参考図書》

- 1) 『解説教育六法 2017年度版』三省堂。
 2) 坂田 仰、黒川 雅子、河内 祥子『図解・表解 教育法規-“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所、2012年。
 3) 高見茂・宮村裕子・開沼太郎（編）『教育法規スタートアップ 教育行政・政策入門 ver. 2』昭和堂、2012年。

《授業時間外学習》

授業で配布したプリントに基づいてまとめノートを作り復習すること。授業でわからなかった点について調べたり、質問を用意したりすること。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育制度の基礎知識	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育制度の基礎知識
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系 ・教育制度の中心的な法規とその内容
3	憲法教育基本法制：憲法、教育基本法①	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤 ・教育基本法の性質
4	憲法教育基本法制：教育基本法②	・教育基本法改正のポイント ・教育基本法の意義と内容
5	学校制度①：学校に関する法規	・法規上の学校の定義 ・日本と諸外国の学校体系の特徴
6	学校制度②：学校の設置と管理	・学校とその公共性 ・学校の設置と管理に関する原則
7	教育行政の仕組み①：文部科学省	・文部科学省と地方の教育委員会の関係と役割分担 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響
8	教育行政の仕組み②：教育委員会制度	・教育委員会制度の歴史 ・教育委員会制度の概要
9	教育を受ける権利の保障①：義務教育1	・教育を受ける権利、教育を受けさせる義務と義務教育制度 ・義務教育の意義と義務の内容
10	教育を受ける権利の保障②：義務教育2	・教育を受ける権利を保障するための制度 ・就学援助、教育扶助の概要
11	教育を受ける権利の保障③：特別支援教育1	・特別支援教育の理念および特殊教育との違い ・特殊教育から特別支援教育に移行した背景
12	教育を受ける権利の保障④：特別支援教育2	・特別支援教育に関する諸制度
13	就学前教育制度①	・就学前教育とは ・幼稚園の教育課程と保育所の目的
14	就学前教育制度②	・就学前教育の新しい展望：認定こども園 ・子育て支援と幼保小連携
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	教育方法論	科目ナンバリング	YS_L23014
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

教育・保育の方法を歴史の変遷や教育者の思想を通して学習する。
 また、現代の教育・保育現場で実践されている指導方法について幼児理解の視点を中心に学ぶ。

《テキスト》

適宜指示する。

《参考図書》

必要に応じて随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 教育・保育方法の歴史の変遷を知る。
- 代表的な教育思想を理解する。
- 幼児理解の観点から、望ましい教育・保育方法について学ぶ。

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
 復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること。

《成績評価の方法》

授業への参加態度および提出物30% 試験70%
 課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の目的と内容、評価について
2	近世の教育①	近世社会における子ども観と教育①
3	近代教育の誕生①	近代学校の誕生
4	近代教育の誕生②	一斉教授法について
5	子どもの主体性への着目	教育方法の転換
6	児童中心主義の教育①	児童中心主義の教育思想①
7	児童中心主義の教育②	児童中心主義の教育思想②
8	幼児理解に基づく教育①	幼児理解と援助①
9	幼児理解に基づく教育②	幼児理解と援助②
10	幼児理解に基づく教育③	カリキュラムデザインと環境構成①
11	幼児理解に基づく教育④	カリキュラムデザインと環境構成②
12	幼児理解に基づく教育⑤	連続性を踏まえた教育・保育①
13	幼児理解に基づく教育⑥	連続性を踏まえた教育・保育②
14	幼児理解に基づく教育⑦	省察とカンファレンス
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	教育相談	科目ナンバリング	YS_L23015
担当者氏名	松岡 恵		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

幼児教育・保育の現場では子どもや保護者に対し指導的役割だけでなく、相手を尊重し理解する姿勢・対応が求められています。カウンセリングの基礎知識、メンタルヘルス、支援について学ぶことで、バランスのとれた教育者になるための視点を得ることを目指します。毎回授業の最後にその日の時講義テーマについての感想、質問、意見などを記述し提出してもらいます。

《授業の到達目標》

- カウンセリングの基本を学び、相手の気持ちを思いやれる。
- 自分自身の心の状態を知り、心身の健康を保つ方法を日常生活で活用できる。
- 子どもたちの心のサインに気づくための基礎知識を習得し、簡潔に説明できる。

《テキスト》

『よくわかるアサーション自分の気持ちの伝え方』平木典子（監修）主婦の友社、2013

《参考図書》

『子どもへのまなざし』佐々木正美、福音館書店、2004
 『続子どもへのまなざし』佐々木正美、福音館書店、2004

《授業時間外学習》

育児不安、いじめ、不登校など子どもや保護者を取りまく子育て・教育環境における問題や心理的支援についてのニュースや記事に日ごろから関心を持って授業に臨みましょう。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論やワークなどへの取り組み 50%
- (2) 授業内容の理解 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などのガイダンス及び、子育てをめぐる状況と教育相談の意義と課題について理解する。
2	メンタルヘルスの問題	メンタルヘルスの問題、背景を知り、将来保護者や教育者として子どもが示すサインに気づき、適切な対応につながる視点をもつための基礎知識を学ぶ。
3	効果的な面接技法①	DVD教材を視聴し、相談者が話しやすいあいづち、質問など相手が話しやすい聴き方と、カウンセリングの基本姿勢や倫理について学ぶ。
4	効果的な面接技法②	DVD教材を視聴し、相談者が安心して話せるような視線のおき方など非言語的コミュニケーションについて学ぶ。
5	自分自身について知る①	ワークシートを用い、自分自身のイメージを探ることで自己理解を深める。
6	自分自身について知る②	ワークシートを用い、自己概念について理解を深め、カウンセリングの基本的な理論について学ぶ。
7	アサーション	アサーションについて学び、自分の気持ちをうまく相手に伝えることができるコミュニケーションのあり方を理解する。
8	発達相談	乳幼児健診などで子どもに実施される発達検査・発達相談について学び、子どもの発達、不安になっている保護者の心理、援助者の役割について理解する。
9	登園渋り・不登校	保育・教育現場で出会う登園渋りや不登校の子供への対応・支援について学び、理解する。
10	不安の高い子ども・緘黙児	保育・教育現場で出会う不安の高い子ども、緘黙児への対応・支援について学び、理解する。
11	相互スキイグルと描画法	相互スキイグルを学び、子どもとのラポール作りや親子遊びに活用できる。
12	ストレスマネジメント	ストレスと心身の関係について学び、その大要を説明できる。またストレスへの対処法の1つとして臨床動作法について体験学習し、気軽に日常生活で活用できる。
13	保護者との関係作り	育児不安の高い、虐待が疑われるなど気がかりな保護者との信頼関係を気付くための関係作りについて学び、対応を考えることができる。
14	他職種・専門機関との連携	子育て支援に関連する他職種の役割、専門機関の役割を知り、将来的に教育・保育現場で連携が必要な基礎知識を学び、対応を考えることができる。
15	まとめ	これまでの学習内容と与えられた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することができる。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	表現総合演習	科目ナンバリング	YS_S23016
担当者氏名	永井 夕起子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

身体表現活動が子どもの発育発達にもたらす影響について学ぶ。幼児期に表れる表現の特徴について理解し、子どもにあった表現を使った遊びについて考える。また、自分自身の身体について理解を深め、幅広い表現力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。配布したプリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- ・自分のイメージや気持ちを動きで表現することができる。
- ・他者の動きを受け入れ、真似したり動きで応答したりして動きを共有することを主体的に楽しもうとする。
- ・基本の動きを発展させ発表することができる。
- ・全身を使った表現作品を創作し発表できる。

《授業時間外学習》

- ・体調管理
- ・日ごろから様々なジャンルの音楽に触れる。
- ・絵本や童話を読み、想像力をつける。

《成績評価の方法》

授業に取り組む姿勢（45%）、実技テスト（20%）、発表（20%）、提出物（15%）

《備考》

動きやすい服装で参加すること。シューズ忘れは欠席と同等の減点になります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と受講上の注意
2	心と身体の結びつきを感じる	身体部位を認識する動き。身体知覚を刺激する遊び。
3	基本的なリズムステップの理解	基本ステップの名称と動き方を覚えて踊る。
4	基本的なリズムステップの発展	基本ステップを組み合わせた複合的ステップの名称と動き方を覚えて踊る。
5	基本的なリズムステップの発展②	ステップを組み合わせせてひとまとまりの振りを創って踊る。
6	基本ステップのまとめ	基本ステップの体得を確認する。
7	リズム遊び	歌や曲のリズムに合わせて身体を動かす遊びに触れ、動きを発展させる方法を学ぶ。
8	歌を使った表現遊び	歌から全身を使った表現を考える。
9	絵本を使った表現遊び	絵本の言葉に合わせて全身を使った表現を考える。
10	身近な道具を使った表現遊び①	スカーフを使った表現遊びを考える。
11	身近な道具を使った表現遊び②	縄・フラフープを使った表現遊びを考える。
12	影絵遊びとデジタル機器を利用した表現	照明やデジタル機器を使って遊ぶ方法について学ぶ。
13	作品づくり	これまでの表現方法を利用して作品を創作する。
14	作品づくり②	作品の創作。発表会の計画と進行について。
15	発表会	リズムカルに動くこと、作品世界のメッセージ性、効果の使い方など総合的な表現力を確認する。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども音楽療育概論	科目ナンバリング	YS_L23019
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

保育者が会う乳幼児の中には、何らかのハンディを持っている子どもも多い。全人的な保育の営みにおいて、保育者対子ども・子ども相互という関わりの中で、音楽が持つ生理的・心理的・社会的な力を利用し心身の発達を促進する音楽療育について学ぶことは意義がある。乳幼児の心身の発達及び音楽面の発達、音楽が持つ医学的・臨床心理学的な働き、音楽療育のプログラム内容、セッションにおける技法等、音楽療育の基本を学ぶ。

《授業の到達目標》

- (1) 音楽が持つ医学的・臨床心理学的な働きについて説明できる。
- (2) 乳幼児の心身の発達及び音楽面の発達を年齢ごとに類別できる。
- (3) 音楽療育のプログラム内容、セッションにおける技法を理解できる。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)(2)については試験を行い、(3)についてはレポート提出とする。評価の割合は、試験50%、レポート50%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。授業の到達目標に対しては、全体の講評を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業内容全体における説明を行う。授業の到達目標・成績評価の方法を確認する。
2	保育における音楽療育	保育者が理解しておくべき保育における音楽療育の基礎的内容について
3	音楽と医学	音楽が人間に寄与する医学的(生理的)働きについて
4	音楽と臨床心理学	音楽が人間に寄与する臨床心理学的(心理的)働きについて
5	乳幼児の発達と音楽	乳幼児の発達段階と音楽の関わりについて
6	乳幼児と音楽療育	乳幼児における音楽療育の意義と可能性について
7	音楽療育の対象	乳幼児の音楽療育における対象児及び障がい等の理解
8	音楽療育の形態	対象児に適した音楽療育の形態について
9	音楽療育の意義及び目標	音楽療育を行う意義及び対象児ごとの目標について
10	音楽療育のプログラムについて①	治療形態・治療方法について
11	音楽療育のプログラムについて②	対象児に応じた配慮・アプローチの方法について
12	音楽療育のセッションについて①	具体的な技法について①
13	音楽療育のセッションについて②	具体的な技法について②
14	音楽療育で使用する音楽	音楽療育を実践する上で使用する音楽・リズムの使い方、選び方について
15	学習のまとめ	これまでの学びを振り返り、まとめを行う

《テキスト》

系統立ったプリントを資料として配布する。

《参考図書》

- 「音楽療法の基礎」/村井靖児/音楽の友社/1995
- 「標準 音楽療法入門<上><下>」/日野原重明他/春秋社/1998

《授業時間外学習》

- ・ 保育や乳幼児を対象とした「支援」に関するニュースに常に興味を持ち、調べる。
- ・ 各自授業ノートを用意し、学んだことを整理していくこと。その際、授業時間外学習として、授業に関連する内容を図書館等で調べ、追記していくこと。

《備考》

ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育相談支援Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S23023
担当者氏名	大西 雅裕		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

本授業は、2回生で履修した「相談援助」、「保育相談支援Ⅰ」を踏まえて、保護者の育児、地域での子育て支援等々について展開される保育相談支援活動の場での相談援助技術について様々な手法を用いて、特にロールプレイを中心に相談支援の実際を学ぶ。

《授業の到達目標》

保育相談支援の方法とロールプレイを通して、保育士として相談援助に対応できるスキルを涵養する。
その実際と援助方法について、批判的に理解する。

《成績評価の方法》

授業中に課す小テストおよびレポートによって評価する。 50%
合計 100%
授業での参加態度、ロールプレイでの取り組み 50%

《テキスト》

なし

《参考図書》

橋本好市・直島正樹編著『保育実践に求められるソーシャルワーク』ミネルヴァ書房
赤木正典、大西雅裕編著「相談援助セミナー」建帛社
柏女霊峰、橋本真紀編著「保育相談支援」ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

その都度課題を出すので、積極的に取り組む。

《備考》

小グループでの学習を行うために、積極的な授業態度での参加を条件づける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本授業の進め方 ガイダンス	本授業を集中で行うために、その進め方についてガイダンスを行う。
2	保育相談支援の現状	保育の今日的課題を各自で考察
3	保育相談支援としての面接場面	保育場面での相談状況
4	ロールプレイ 1	ロールプレイの仕方
5	ロールプレイ 2	ロールプレイの設定
6	ロールプレイ 3	ロールプレイの準備と配役
7	ロールプレイ 4	ロールプレイの実際
8	ロールプレイ 5	ロールプレイの実際 2
9	ロールプレイの検討	全員での検討会①
10	ロールプレイの検討②	全員での検討会②
11	ロールプレイ③	全員での検討会
12	ロールプレイ④	全員での検討会
13	保育相談支援の実際 3	記録の仕方
14	保育相談支援の実際 4	記録の仕方②
15	まとめ	まとめと振り返り。レポート作成

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	集団施設保育の現状と課題		科目ナンバリング	YS_L23024
担当者氏名	柏 まり			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》

保育者になることを志望する学生に、保育所・幼稚園等に代表される集団施設保育制度の現状を理解させ、課題解決に向けた力量の醸成を図る。具体的には、保育の専門家として幼稚園・保育所・認定こども園の制度を理解し、子どもの健全な育ちの場として、施設保育のあり方について考える。併せて、保育の質を向上させる方策についても模索する。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省
 『保育所保育指針解説』厚生労働省
 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 他

《参考図書》

必要に応じて、随時指示する

《授業の到達目標》

- ・幼稚園・保育所・認定こども園制度の歴史と現状、課題について理解する
- ・子ども・子育て支援新制度の概要と課題について理解する
- ・保育の質を向上させるための方策を理解する

《授業時間外学習》

『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』について予習等を行い、内容について理解しておくこと

《成績評価の方法》

期末レポート（60%）・授業中レポート（30%）・授業態度（10%）を総合的に評価

《備考》

グループ活動等もあるので、積極的な態度でのぞむこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や基本的概念の共有を図る
2	保育とは	「保育」概念についての共通理解を行う
3	保育思想の源流（西洋）	西洋における保育思想の芽生え（ペスタロッチ・フレーベル・デュイ等）について
4	保育思想の源流（日本）	わが国における保育思想の芽生え（和田実・東基吉・倉橋惣三等）について
5	保育施設の歴史（幼稚園）	幼稚園の誕生とフレーベル主義について理解する
6	保育施設の歴史（保育所）	託児と保育所の誕生について理解する
7	幼保一元化の歴史	総合モデル施設事業等の施策について理解する
8	幼保一元化の現状	必要性和課題を把握する
9	子ども・子育て支援新制度①	子ども・子育て支援新制度の概要を理解し、課題を顕在化することを目指す
10	子ども・子育て支援新制度②	子ども・子育て会議の役割を理解する
11	保育職の現状と課題①	保育士不足の要因を考え、課題を顕在化する
12	保育職の現状と課題②	保育者のワーク・ライフ・バランスについて理解する
13	保育の質の向上①	保育の質の評価について考察する
14	保育の質の向上②	保育者のワーク・ライフ・バランスと保育の質の評価の関係性を把握する
15	まとめ	講義の総括を行う

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習 I B	科目ナンバリング	YS_F23026
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

施設の役割と機能（施設の生活と一日の流れ）／こども理解（こどもの観察とその記録、一人ひとりの状態に応じた援助や関わり）／養護内容・生活環境（こどもの心身の状態に応じた支援、健康管理、安全対策の理解）／計画と記録（支援計画の理解と活用、記録に基づく省察・自己評価）／専門職としての保育士の役割と倫理（保育士の業務内容、職員間の役割分担や連携、保育士の役割と職業倫理）。

《授業の到達目標》

- 児童福祉施設（保育所以外）の役割や機能について理解することができる。
- 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めることができる。
- 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
- 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

《成績評価の方法》

実習施設での評価（60%）
 実習ノート等実習の成果について（40%）

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次ほか編，（株）みらい

《参考図書》

《授業時間外学習》

- 実習には万全の体調で臨むこと（実習開始10日前からの検温の実施）。
- 実習中は慣れない環境、緊張等で体調を崩しやすいので、実習に集中できるよう自己管理を徹底すること。
- 必要に応じて実習事務室に連絡をすること。

《備考》

- ①本実習は「保育実習指導 I B」と一体化している科目であること。
- ②再履修の機会はないこと。以上について留意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童福祉施設での保育実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_F23027
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

実際に保育所保育の現場に参加し、乳幼児理解を深めるとともに保育の実践的課題について学ぶ。

《テキスト》

実習園の指導内容を参考にすること
相馬和子・中田カヨ子『実習日誌の書き方』萌文書林

《参考図書》

実習園の指導を参考にすること
保育実習指導Ⅱで用いた資料やノートを参考にすること

《授業の到達目標》

- 保育所の機能や役割、保育士の業務内容や職業倫理について具体的実践を通して学ぶ。
- 具体的な保育参加を通して、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
- 指導計画、実践、記録、省察を通して保育実践の在りようを具体的に学ぶ。

《授業時間外学習》

普段から乳幼児に関する話題に関心を持ち、自分なりの課題意識や考察を深めるよう努力すること。

《成績評価の方法》

実習園の評価、実習ノートの記入内容を総合的に判断する(100%)。
課題に対するフィードバック：わからないことは随時質問を受け付ける。

《備考》

円滑な実習が行えるよう体調管理に万全を期すこと。早朝より開始される保育所生活に十分対応できるよう生活リズムを整えて臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所実習	保育実習指導Ⅱ、その他既習科目の内容を十分に踏まえること。実習園の指導に従い、積極的に実習を行うこと。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習Ⅲ	科目ナンバリング	YS_F23028
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

児童福祉施設（保育所以外）の役割と機能を学ぶ／施設における支援の実際（受容し共感する態度、個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解、個別支援計画の作成と実践、子どもの家庭への支援と対応、多様な専門職との連携、地域社会との連携）について学ぶ／保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ／保育士としての自己課題を明確にする。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 児童福祉施設の役割や機能について実践を通して理解を深める。
- 家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。
- 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践と連動させて理解し、保育士としての自己の課題を明確化する。

《授業時間外学習》

- 実習には万全の体調で臨むこと（実習開始10日前からの検温の実施）。
- 実習中は慣れない環境、緊張等で体調を崩しやすいので、実習に集中できるように自己管理を徹底すること。
- 実習中は、必要に応じて実習事務室に連絡をすること。

《成績評価の方法》

実習施設での評価（60%）
実習ノート等実習の成果について（40%）

《備考》

- ①本実習は「保育実習指導Ⅲ」と一体化している科目であること。
- ②再履修の機会はないこと。以上を明示しておくこととする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童福祉施設での保育実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習指導ⅠB		科目ナンバリング	YS_S23030
担当者氏名	杉山 貴要江			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する 			

《授業の概要》

本演習では、保育実習の意義・目的を理解し、児童福祉施設での実習を円滑に進めるために、授業等で修得した知識・技術を再確認する。実習前には実習課題を設定し、目的を明らかにして実習に臨み、実習後は実習報告会を開催し、実習の自己評価、他者評価を基にして実習報告書を作成する。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次ほか編、(株)みらい

《参考図書》

『保育福祉小六法』，保育福祉小六法編集委員会編，(株)みらい
その他、随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢、個人を尊重する考え方を理解できる。
- プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。
- 実習計画書の作成、実習中の観察、日誌等記録の書き方、養護技術を学習し修得できる。
- 実習後は、実習全体を振り返り、実習報告書を作成するとともに新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

《授業時間外学習》

子どもの貧困、虐待に関する新聞報道等には目を通し、施設で生活する子どもの姿を把握してもらいたい。

《成績評価の方法》

事前指導：課題の提出、実習計画書の作成等（50%）
事後指導：実習報告会での発表、実習報告書の作成等（50%）
提出物は返却する。

《備考》

①授業は全出席を原則とするので、やむを得ず欠席をする場合は、事前に連絡をすること。②本科目は「保育実習ⅠB」と一体化しており、再履修の機会はありません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育実習全体の中の「保育実習ⅠB」の位置付け、授業内容、評価基準と方法、テキストと実習施設に応じた参考資料、予定表の配布、個人票の作成等について
2	事前指導 - 1	実習ノートの配布、実習計画書の作成について
3	事前指導 - 2	視聴覚教材による学習 (1) 各自実習施設に関する情報収集とテキストによる学習
4	事前指導 - 3	視聴覚教材による学習 (2) 各自実習施設に関する情報収集とテキストによる学習
5	事前指導 - 4	書籍、専門誌による学習 実習計画書の書き方と提出方法
6	事前指導 - 5	実習計画書の提出
7	事前指導 - 6	実習日誌の書き方
8	事前指導 - 7	オリエンテーションについて、その意義と諸注意
9	事前指導 - 8	実践者に学ぶ (1) 児童養護施設等について
10	事前指導 - 9	実践者に学ぶ (2) 障害のある子どもの施設について
11	事前指導 - 10	実習に臨むにあたって、実習生の立場と心構えについて 実習報告書の作成について (記述内容と提出方法)
12	事後指導 - 1	実習報告会の準備 (1)
13	事後指導 - 2	実習報告会の準備 (2)
14	事後指導 - 3	実習報告会 (1)
15	事後指導 - 4	実習報告会 (2)

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習指導Ⅱ		科目ナンバリング	YS_S23031	
担当者氏名	澤田 真弓				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する 			

《授業の概要》

保育所での現場実習に向けて、保育について総合的に学び実践力を培う。
各自の実習課題を明確にし、事前準備を行う。
実習終了後は自己評価、他者評価を基に実習の振り返りを行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
幼少年教育研究所『遊びの指導』同文書院

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
- 既習科目の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
- 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
- 保育に対する課題や認識を明確にする。

《授業時間外学習》

普段から乳幼児に関する話題に関心を持ち、自分なりの課題意識や考察を深めるよう努力すること。

《成績評価の方法》

事前指導（50%）、事後指導（50%）
課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

全出席を前提とする。やむを得ず欠席、遅刻をする場合は必ず事前に連絡をすること。連絡先については授業の初回に提示する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育実習Ⅱの意義と目的
2	事前指導1	保育士の職業倫理
3	事前指導2	子どもの保育と保護者支援①
4	事前指導3	子どもの保育と保護者支援②
5	事前指導4	保育実践の具体的理解①
6	事前指導5	保育実践の具体的理解②
7	事前指導6	実習における観察と指導の視点①
8	事前指導7	実習における観察と指導の視点②
9	事前指導8	実習ノートの記入 指導計画の書き方①
10	事前指導9	実習ノートの記入 指導計画の書き方②
11	事前指導10	直前指導 実習中の注意事項 実習終了後の注意事項
12	事後指導1	実習の振り返り①
13	事後指導2	実習の振り返り②
14	事後指導3	実習報告①
15	事後指導4	実習報告②

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育実習指導Ⅲ		科目ナンバリング	YS_S23032
担当者氏名	杉山 貴要江、濱口 清子			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する 			

《授業の概要》

社会福祉系の科目で学習した内容や「保育実習Ⅰ」での実習体験を活かして、児童福祉施設（利用施設を含む）での子どもや障害児への援助内容や方法について理解を深め、家族を含めた家庭支援のための知識や技術、判断力を養う。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 子どもの最善の利益に考慮した具体的理解ができる。
- 子どもの状態に応じた適切なかわりができる。
- 保育士の専門性を活かした支援ができる。
- 職業倫理を理解し実践することができる。
- 事後指導における実習の総括と自己評価ができる。

《授業時間外学習》

子どもに関する新聞報道等には目を通し、子どもの現状を把握するよう努めること。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成等（50%）
事後指導：実習報告書の作成等（50%）
提出物は返却する。

《備考》

①全出席を原則とするので、やむを得ず欠席をする場合は必ず連絡をすること。②本科目は「保育実習Ⅲ」と一体化しており、再履修の機会はない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育実習における「保育実習Ⅲ」の位置付け、実習の目的と内容 実習施設の選定について
2	実習施設の選定	受講生は各自実習施設を選定し、承諾に努める
3	事前指導 - 1	実習施設の理解、実習計画書について
4	事前指導 - 2	保育士と権利保障について理解する。
5	事前指導 - 3	保育士とソーシャルワークについて理解する。
6	事前指導 - 4	保育士と地域社会のかかわりについて理解する。
7	事前指導 - 5	実習計画書の作成、提出について
8	事前指導 - 6	施設でのオリエンテーションについて
9	事前指導 - 7	実習に臨むにあたって
10	事後指導 - 1	実習報告書の書き方と提出方法について
11	事後指導 - 2	実習報告会の準備
12	事後指導 - 3	実習報告会の準備
13	事後指導 - 4	実習報告会
14	事後指導 - 5	実習報告書の提出
15	事後指導 - 6	保育士資格と進路について

《専門教育科目 発展科目》

科目名	子育て支援地域活動Ⅱ		科目ナンバリング	YH_S23002
担当者氏名	山村 けい子			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》

「子育て支援地域活動Ⅱ」については、「子育て支援地域活動Ⅰ」を受講した学生を対象にした科目である。地域の子育て支援施設での活動を実践する中で企画・立案等をし、子育てを支える地域子育て活動の経験を深めて行く。

《テキスト》

子育て支援プロジェクト研究会
『子育て支援の理論と実践』
ミネルヴァ書房

《参考図書》

渡邊頭一郎・橋本真紀編著
『地域子育て支援拠点ガイドラインの手引』中央法規
授業中に適宜示唆する

《授業の到達目標》

- 実践的な取り組みから子育て支援の歴史文化的な視点から子育て支援の意義を理解する。
- 子育て支援地域活動の事例研究を通して地域活動の重要性を知り、課題を見つける。
- 自らが子育て支援地域活動に参加し、企画・立案できる担い手へとなる。

《授業時間外学習》

- (1)授業中に出された課題には積極的に取り組むこと
- (2)子育て支援に関する情報や資料を必ず収集し、整理しておくこと
- (3)ボランティア活動に積極的に参加することが望ましいが、授業を優先すること

《成績評価の方法》

- (1)授業中の態度や発表当 (10%)
 - (2)レポートなど提出物 (30%)
 - (3)筆記試験 (60%)
- 授業の最後には振り返りを行う

《備考》

授業形態は、演習ですが、理論と実践を結ぶ場として学生自身が主体的に実践からの学びを深めることを期待する

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子育て支援地域活動の取り組み	オリエンテーション・子育て支援地域活動の取り組みへのグループ作り
2	実践演習に向けての教材研究	子育て支援地域活動についての基本的な知識を学習する
3	実践演習に向けての教材研究	グループで企画・立案をする。共通理解をしておく。
4	実践演習①	演習①
5	実践演習②	演習②
6	グループ討議Ⅰ実践からの学び	演習①②からの学びと課題（レポート）
7	実践演習③	演習③
8	実践演習④	演習④
9	グループ討議Ⅱ実践からの学び	演習③④からの学びと課題（レポート）
10	実践演習⑤	演習⑤
11	実践演習⑥	演習⑥
12	グループ討議Ⅲ実践からの学び	演習⑤⑥からの学びと課題（レポート）
13	子育て地域活動のワークショップ	グループ討議（体験したことについて事例検討をし、課題について考える。）
14	子育て地域活動のワークショップ	グループ討議（体験したことについて事例検討をし、課題について考える。） 地域子育て支援拠点との関連について理解をする。
15	学修のまとめ	子育て支援地域活動について実践からの学びを保育現場でどのように生かすかを話し合う

《専門教育科目 発展科目》

科目名	児童館の機能と運営		科目ナンバリング	YH_L23003	
担当者氏名	濱口 清子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《授業の概要》

児童館の基本的な役割と、児童館施策の経緯・児童館活動の実際を知る。
 子どもの発達における「遊び」の大切さを知り、大人が子どもの遊びを支援するときに求められる視点と技法を習得する。
 児童館の今日的課題を学び、児童厚生員が子育て支援に取り組む際の視点を理解する。

《テキスト》

「児童館論」一般財団法人健全育成推進財団2014年発行
 必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

《授業の到達目標》

- 地域における子どもの遊び・育ちの実際を知る
- 児童館の役割を知り、児童館における子どもと子育て支援の技法を理解する
- 子どもから信頼され、子どもの成長・発達に寄り添える指導者となる視点を身につける

《授業時間外学習》

- ・子どもの発達に応じた遊びについて興味関心を持ち、具体的な遊びプログラムが作れるように準備しておくこと。
- ・県内の大型児童館A型（県立こどもの館）や大型児童館B型（姫路市立星の子館）、地元の小型児童館など見学しておくことを期待します。

《成績評価の方法》

- 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 児童館の概要	児童館の概要を知り、児童の遊びを指導する者（児童厚生員）としての学習の見通しを立てる
2	児童館に関する根拠法令	児童福祉施設としての児童館の歴史や根拠法令から児童館の位置づけや今日的課題について理解する
3	児童館の機能と役割	児童館の施設特性や規模別特徴について理解し、活動内容について学ぶ
4	グループ討議 1 子どもの環境課題	子どもを取り巻く家庭や地域の環境を知り、問題点を分析し児童館の役割や取組について考えを深める
5	グループ討議 2 子どもの発達と遊び	児童館に来館する幼児・小学生の遊びと発達の関係を理解し健全育成のための活動内容について考えを深める
6	グループ討議 3 子どもの発達と遊び	児童館に来館する中・高生の遊びと発達の関係を理解し健全育成のための活動内容について考えを深める
7	児童館と子育て支援	地域ぐるみの子育て支援の必要性を理解し、児童厚生員が行う子育て支援やコミュニティワークについて学ぶ
8	グループワーク1 小型児童館活動の実際	小型児童館における子どもを育む遊びのプログラムを立案し実践化する
9	グループワーク2 小型児童館活動の実際	小型児童館における子育て支援活動のプログラムを立案し実践化する
10	小型児童館活動における児童厚生員の役割	各グループの発表内容を共有し検討を深めることで児童厚生員のプレーワーカーやコミュニティワーカーとしての役割を学ぶ
11	児童館における放課後児童クラブ	放課後児童クラブにおける育成支援の基本や活動内容について理解するとともに児童館で実施する放課後児童クラブの長所について理解する
12	児童厚生員の倫理	児童館職員の倫理と児童厚生員の責務を学び、児童厚生員・放課後児童指導員の倫理綱領を通して専門職者としての在り方を考える
13	児童厚生員に必要なコミュニケーション力	演習を通して自らの自己表現について振り返り、子どもや保護者等との信頼関係を紡ぐさわやかな自己表現について学ぶ
14	児童館における衛生管理と安全対策	児童館が安全で安心な子供の居場所となるために平時の衛生管理、安全対策及び緊急時対応について理解する
15	学習のまとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明でき、児童厚生員への関心が高まる

科目名	発達障害児への支援		科目ナンバリング	YH_S23004	
担当者氏名	式部 陽子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

発達障害のある子どもの支援に関する基本的な知識と理解、具体的な支援方法について演習を通して学ぶ。特に、自閉症スペクトラム、ADHD、学習障害等の発達障害のある子どもの障がい特性の正しい理解、子どもの特性に応じた支援のあり方、家族への支援について、実践的な力を培うことを目的とする。演習では発達障害のある子どもへの適切な環境設定や事前の工夫、子どもの行動への具体的ななかかわり方について考える。

《授業の到達目標》

○自閉症スペクトラム、ADHD、学習障害等の発達障害の特性について正しく説明できる ○主な療育技法や発達障害のある子どもの支援方法について説明できる ○発達障害のある子どもの支援について、環境調整や事前の工夫、子どもの行動への具体的ななかかわり方を考えることができる ○家族への支援のあり方について説明できる

《成績評価の方法》

(1) 毎回の講義後のミニレポートおよび授業内演習への参加とその成果50% (参加意欲および演習シートの記入内容によって評価) (2) レポート課題20% (提出遅れは減点) (3) 筆記試験30%

《テキスト》

適宜資料を配布する。

《参考図書》

①『保育士のための気になる行動から読み解く子ども支援ガイド』、平澤紀子・山根正夫・北九州市保育士会(著)・藤原義博(監修)、学苑社(2005)、②『子育てが楽しくなる5つの魔法(改訂版)』、井上雅彦(監修)、アスペエルデの会(2012)

《授業時間外学習》

(1) 適宜、発達障害に関連する書籍や報道・メディア等の案内を行うので、日常から発達障害への関心を持っておくこと。(2) 授業内で紹介する保護者の手記を読んでレポートを提出してもらいます。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発達障害とは	発達障害とは何か、障害の定義やそれぞれの特性について学ぶ
2	発達障害のある子どもたち	発達障害のある子どもの特徴について学ぶ(疑似体験含む)
3	発達障害のある子どもの療育(1)	さまざまな療育技法や支援方法について学ぶ
4	発達障害のある子どもの療育(2)	発達障害のある子どもにわかりやすいスケジュールや教材を作成する
5	発達障害のある子どもの家族支援	発達障害のある子どもの家族への支援について学ぶ。保護者の手記を読んでレポート提出を求める
6	発達障害のある子どもと家族への支援(1)	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験①ほめ上手疑似体験を通して、発達障害児への具体的ななかかわり方を学ぶ
7	発達障害のある子どもと家族への支援(2)	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験②観察上手疑似体験を通して、発達障害児への具体的ななかかわり方を学ぶ
8	発達障害のある子どもと家族への支援(3)	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験③整え上手疑似体験を通して、発達障害児への具体的ななかかわり方を学ぶ
9	発達障害のある子どもと家族への支援(4)	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験④伝え上手疑似体験を通して、発達障害児への具体的ななかかわり方を学ぶ
10	発達障害のある子どもと家族への支援(5)	発達障害のある子どものペアレント・トレーニング・プログラム疑似体験⑤教え上手疑似体験を通して、発達障害児への具体的ななかかわり方を学ぶ
11	保育所・幼稚園等での具体的支援(1)	仮想事例をもとに、発達障害のある子どもへの具体的な支援について検討する第1回から第10回で学んだ内容を応用する力を身につける
12	保育所・幼稚園等での具体的支援(2)	仮想事例をもとに、発達障害のある子どもへの具体的な支援について検討する第1回から第10回で学んだ内容を応用する力を身につける
13	保育所・幼稚園等での具体的支援(3)	仮想事例をもとに、発達障害のある子どもへの具体的な支援について検討する第1回から第10回で学んだ内容を応用する力を身につける
14	試験	筆記試験を実施する
15	学習のまとめ・振り返り	講義全体のふりかえり及びまとめを行う

《専門教育科目 発展科目》

科目名	発達と疾病・障害 I	科目ナンバリング	YH_L22005
担当者氏名	中塚 志麻		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

子どもの成長と発達を理解し、病気や障害を有する子どもの心理・生理・病理を学ぶ。授業では、病虚弱・肢体不自由（重度重複）・知的障害・発達障害の領域に分け、各障害・疾病の子ども達とその家族に対する理解を深める。また、子ども達が幸せに成長するために必要な力であるレジリエンスを育む課題やワークを取り入れ、学生自身がアクティビティを高める講義を行う。

《授業の到達目標》

①子どもの発達（発達段階と発達課題）を理解する。②各障害・疾病を有する子どもの心理・生理・病理を理解する。③子どもの生きる力としてのレジリエンスを学生自身も習得する。

《成績評価の方法》

グループワークの参加とその成果（30％）・小テスト（30％）・レポート課題（40％）を通して評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション：障害についての基礎知識①	①障害についての基礎知識を学ぶ②障害の考え方の移り変わりを学びながら、私達自身の障害観を再考する。
2	障害についての基礎知識②	①ICIDHとICF ②日常的によく目にしたり聞いたりする「障害を表す表記」について③障害者権利条約と障害者差別解消法を理解する。
3	障害児保育・特別支援教育①	①障害児保育・特別支援教育の概論：歴史・意義・課題について、基礎的知識を理解する。
4	障害児保育・特別支援教育②	障害児保育・特別支援教育現場での活動について学ぶ
5	発達とは	人の心と体の発達のメカニズムについての基礎知識や発達段階や発達課題について学ぶ
6	認知発達と感覚について	①五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）の発達について学ぶ。②感覚過敏・感覚鈍麻を有している子どもについて理解する。
7	神経発達症群（発達障害）①	①神経発達症群（発達障害）の基礎知識を学ぶ②事例・疑似体験を通して神経発達症群の子ども達の行動や心理を理解する。
8	神経発達症群（発達障害）②	①神経発達症群の子ども達とレジリエンス②神経発達症群の子ども達への関わり方を学ぶ。
9	最近の小児医療の動向①	①医師と患者の関係について学ぶ。②全人的医療について ③医療型障害児入所施設について学ぶ。
10	小児医療現場で働く人々①	①病棟保育士の仕事と役割 ②チャイルドスペシャリストの仕事と役割
11	小児医療現場で働く人々②	①入院している子どもの心を癒す取り組みについて：セラピードッグやホスピタルクラウンについて学ぶ。
12	医療の世界のつながりを知る	地域の小児医療現場やその中で働く人々について、興味のある事項をグループワークで調べる。②発表を通して、小児医療とのつながりを深く理解する。
13	病弱教育について①	①特別支援教育の中の病弱教育 ②病弱教育とは ③病弱教育の役割
14	病弱教育について②	①事例を通して病弱教育の現場の実際を知り、理解を深める。
15	病気の子どもの心理	①事例を通して、病気の子どもの気持ちを理解する。①病気の子どもへの関わり方について学ぶ。

《テキスト》

文部科学省：教育支援資料

《参考図書》

図でわかる発達心理学（福村出版）
病弱・虚弱児の医療・療育・教育（金芳堂）

《授業時間外学習》

①授業に関連した課題レポートを提出する。

《備考》

文部科学省：教育支援資料を使用します。文部科学省HPから各自ダウンロードしてください。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	発達と疾病・障害Ⅱ		科目ナンバリング	YH_L23006
担当者氏名	中塚 志麻			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》

発達と疾病Ⅰで学んだ「子どもの発達」や「疾病・障害を有する子どもの心理・生理・病理」を想起しながら、支援者として適格な判断や対応が行える実践的な学習を行う。代表的な疾病・障害の具体的な症例や事例を通して、理解を深め、支援につながる関わり方を習得できる授業を実施する。

《テキスト》

文部科学省・教育支援資料

《参考図書》

病弱・虚弱児の医療・療育・教育（金芳堂）

《授業の到達目標》

①各疾病・障害を有する子どもの心理・生理・病理の理解を深め、配慮や支援について学ぶ。②支援者として、子どもやその家族、関係者との関わりを深めるための知識や技術、思いやりの気持ちを習得する。

《授業時間外学習》

①授業に関連した課題レポートを提出する。

《成績評価の方法》

小テスト（30%）・グループワーク（30%）・レポート（40%）を通して、総合的に評価を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害について（制度や取組）	①文部科学省や厚生労働省の制度等の最新情報について学ぶ。
2	障害とレジリエンス	病気や障害をもつ子どもにとって必要なレジリエンス能力を育む支援について学ぶ。
3	病虚弱児の心理・生理・病理①小児がん1	①小児がんについて ②小児がんの子どもの心理・生理・病理について理解する。
4	病虚弱児の心理・生理・病理②小児がん2	③小児がんの子どもの家族の支援 ④ターミナルケア
5	病虚弱児の心理・生理・病理③I型糖尿病	①I型糖尿病について②事例を通してI型糖尿病の子どもの心理・生理・病理について理解する。
6	病虚弱児の心理・生理・病理④腎疾患	①腎疾患について②腎疾患の子どもの心理・生理・病理について理解する。
7	病虚弱児の心理・生理・病理⑤心の病気	①心の病気について②心身症・神経症の子どもの心理・生理・病理について理解する。
8	肢体不自由児の心理・生理・①脳性まひ	①脳性まひについて②脳性まひの子どもの理解と支援
9	肢体不自由児の心理・生理・②筋ジストロフィー	①筋ジストロフィーについて②筋ジストロフィーの子どもの理解と支援
10	肢体不自由児の心理・生理・③医療的ケア	①医療的ケアについて②医療的ケアの実際について、演習を通して理解を深める。
11	肢体不自由児の心理・生理・④摂食	①摂食について②摂食指導演習を通して、摂食指導の重要性について理解を深める。
12	知的障害①てんかん	①てんかんについて②てんかんの子どもの理解と支援
13	知的障害②アンジェルマン症候群	①アンジェルマン症候群について②アンジェルマン症候群の子どもの理解と支援
14	知的障害③ウィリアムス症候群	①ウィリアムス症候群について②ウィリアムス症候群の子どもの理解と支援
15	子どものQOL	疾病や障害を有する子どものQOLを向上させるための支援についてグループワークを行う。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	こころとからだのしくみ I	科目ナンバリング	YH_L22007
担当者氏名	木村 省吾		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

前期では主に人体の生理解剖について講義する。

《テキスト》

《授業の到達目標》

人体の骨、筋肉、神経、各種臓器の機能などを理解し、基礎的な医学用語を修得する。

《参考図書》

ぜんぶわかる人体解剖図 坂井 建雄 (著) 橋本 尚詞 (著)
 図解入門よくわかる生理学の基本としくみ 富瀬 規嗣 (著)
 新訂版 解剖生理をおもしろく学ぶ 増田 敦子 (著) 新訂版 人体解剖ビジュアル からだの仕組みと病気 松村 謙
 兜 (著) 心とからだを育む 子どもの保健 I 高内 正子 (編著)

《授業時間外学習》

講義内容によってはあらかじめ授業前の予習が望ましい為、予習必要時は適宜周知する予定。

《成績評価の方法》

レポート作成または筆記試験にて評価する。

《備考》

各週におけるテーマは授業の進行状況に応じて適宜変更する予定。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ヒトの細胞、循環器について	細胞の構成、それぞれの器官の役割について、循環器では主に心臓や血管の働き、基礎的な医学用語などについて、それぞれ資料とテキストを使い理解を深める。
2	ヒトの細胞、循環器について	細胞の構成、それぞれの器官の役割について、循環器では主に心臓や血管の働き、基礎的な医学用語などについて、それぞれ資料とテキストを使い理解を深める。
3	循環器学とその代表的な病態	代表的な循環器疾患について理解する。
4	消化器・代謝・栄養学について	食道、胃、十二指腸、小腸、大腸などの管腔臓器の解剖と機能を学ぶ。
5	消化器・代謝・栄養学について	肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓、腎臓の解剖と機能について理解する。
6	消化器・代謝・栄養学について	3大栄養素や代謝について理解する。
7	代表的な消化器・代謝疾患について	代表的な消化器・代謝疾患について学ぶ。
8	代表的な消化器・代謝疾患について	代表的な消化器・代謝疾患について学ぶ。
9	呼吸器学について	口腔、気管、肺など呼吸器系統の解剖と機能について学ぶ。
10	呼吸器学について	口腔、気管、肺など呼吸器系統の解剖と機能について学ぶ。
11	代表的な呼吸器疾患について	代表的な呼吸器疾患について学ぶ。
12	代表的な呼吸器疾患について	代表的な呼吸器疾患について学ぶ。
13	骨・筋肉の解剖と機能	人体の代表的な骨、筋肉の解剖と機能について理解する。
14	骨・筋肉の解剖と機能	人体の代表的な骨、筋肉の解剖と機能について理解する。
15	前期生理解剖の総復習	これまで講義した内容の復習と質疑応答。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	こころとからだのしくみⅡ	科目ナンバリング	YH_L23008
担当者氏名	木村 省吾		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

前半は前期分の残りの生理解剖と脳神経・神経一般について学ぶ。後半は小児が罹患しやすい代表的な感染症や、小児の発達・発育過程や発達障害の特性について学ぶ。

《テキスト》

《参考図書》

幼稚園・保育園での発達障害の考え方と対応 役に立つ実践編
 平岩幹男（著） 心とからだを育む 子どもの保健Ⅰ 高内正子（編著）

《授業の到達目標》

簡単な神経学用語や小児の発達について理解できる。

《授業時間外学習》

神経学と発達障害の授業前はあらかじめ予習しておくのが望ましい。

《成績評価の方法》

レポート作成で評価する。

《備考》

DVD学習を適宜行う予定。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	体温調節、免疫について	ヒトの体温調整機能や免疫概論について
2	代表的な内分泌臓器とその疾患について	内分泌臓器の代表例とその疾患について
3	感覚器について	五感を司る感覚器一般について
4	ホルモン産生器官（内分泌臓器）について	内分泌臓器の学習とやや重複するが、その中で体内に重要な役割を持つホルモン産生器官について学習する
5	生殖器臓器について	子宮、卵巣、精巣などの生殖器臓器の解剖と機能について
6	神経総論・脳神経	中枢・末梢神経概論
7	神経総論・脳神経	中枢・末梢神経概論
8	小児の発達について	小児の発育・発達について
9	小児の感染症について	小児に罹患しやすい代表的な感染症について
10	発達障害とは？	発達障害概論
11	発達障害とは？	発達障害概論
12	DVD学習	「実習で学ぶ発達障害とコミュニケーション理論」
13	DVD学習	「災害時の子どもの心のケア講演会&トラウマ体験セミナー」
14	DVD学習	「災害時の子どもの心のケア講演会&トラウマ体験セミナー」
15	これまでの総復習	総復習またはDVD学習

《専門教育科目 発展科目》

科目名	児童の貧困と虐待	科目ナンバリング	YH_L23009
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

この講義では、現代の国際社会の文脈の中で、子どもをとりまく環境がどのように理解され、子どもに関して何が解決すべき課題だと分析され、さらに課題を解決するにはどのようなアクションが必要だと認識されているのかについて、多くの具体的事例を挙げながら諸君とともに議論していきたい。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

講義の中で随時紹介していく。

《授業の到達目標》

- 現代の諸外国の子どもが抱える諸問題を具体的に論じることができる。
- 諸問題を解決するための措置を現実的な文脈の中で思考することができる。
- 日本と諸外国の子どもを取り巻く諸問題について、その相違点を挙げるができる。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

「貧困と虐待」というかなりショッキングなタイトルのついた講義ですが、世界の子どもの置かれた社会的な文脈を理解し、そこから様々な問題をじっくり考えていきたいと思えます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、現代の国際社会
2	世界の子ども	様々な国際指標から
3	飢餓と貧困	干ばつ・疫病
4	都市と貧困	拡大するスラム
5	人身売買	売春・買春・ポルノ
6	国際結婚と子ども	国籍・養育権
7	戦火の子ども（1）	少年兵の現状
8	戦火の子ども（2）	難民の現状と課題
9	女子教育（1）	女子に対する差別
10	女子教育（2）	マララ・ユスフザイさんの活動
11	子どもの権利条約（1）	条約成立の背景、構成、選択議定書
12	子どもの権利条約（2）	第1条～第20条の輪読
13	子どもの権利条約（3）	第21条～第40条の輪読
14	課題解決のために（1）	国連、ユニセフの活動
15	課題解決のために（2）	NPOの活動

《専門教育科目 発展科目》

科目名	児童の健全育成と福祉		科目ナンバリング	YH_L23010
担当者氏名	杉山 貴要江			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む 			

《授業の概要》

わが国では児童の貧困問題について注目されてから久しいが、その現状を踏まえて、子どもの健全育成について考察する。事例研究することで、さらに保育者としての実践に役立てられるようにする。

《テキスト》

『健全育成論』一般財団法人 児童健全育成推進財団

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 健全育成の基本を理解し、地域支援について計画の策定ができる。
- 児童の健全育成を考えるうえで、地域の社会資源との連携について具体的に考えることができる。
- 多様化する保護者の価値観を理解し、児童厚生員の役割について考えることができる。

《授業時間外学習》

児童に関わる新聞報道等により子どもの現状を把握するよう努めてもらいたい。

《成績評価の方法》

授業への参加態度と意欲（50%）
課題の提出：授業終了時に理解度を確認するために小テストを課し、その後返却し復習の機会とする（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健全育成について - 1	児童の健全育成と福祉を学ぶ意義、授業内容、授業の進め方、評価について説明する。健全育成について、法的根拠等について理解する。
2	健全育成について - 2	わが国の健全育成に関わる機関について理解する。
3	健全育成について - 3	子ども・子育て新制度における健全育成を具現化した政策について理解する。
4	子どもの地域生活 - 1	子どもの遊び方の今昔について調べ、子どもを取り巻く環境の変化について理解する。
5	子どもの地域生活 - 2	就学前児童の昼間の居場所について調べ、子育て支援の必要性について理解する。
6	子どもの地域生活 - 3	放課後児童健全育成事業の実際について調べ、自治体ごとに異なる工夫をしていることを理解する。
7	子どもの地域生活 - 4	地域社会における子どもの健全育成に関わっている社会資源と人的資源について、受講生が生活する地域での実情について調べる。
8	子どもの地域生活 - 5	前回の授業内容を踏まえ、受講生の報告を基にして、今後のあるべき姿を各自まとめる。
9	健全育成と福祉 - 1	わが国の子どもの貧困問題について調べ、解決の糸口について考える。
10	健全育成と福祉 - 2	前回の授業を踏まえ、受講生間で討議し、子どもの貧困問題についての考えを各自まとめる。
11	健全育成と福祉 - 3	子どもの虐待問題について、事例研究を行う。
12	健全育成と福祉 - 4	前回の授業を踏まえ、受講生間で討議し、子どもの虐待問題についての考えを各自まとめる。
13	健全育成と福祉 - 5	子どもの地域生活 - 1～5の授業での学びを踏まえ、現在実施されている子育て支援について理解し、家庭、地域社会、保育所等児童福祉施設の役割について討議する。
14	健全育成と福祉 - 6	前回の授業を踏まえ、子育て支援と健全育成についての考えを各自まとめる。
15	まとめ	全授業を通して、児童の健全育成とその政策及び子どものwell-beingについて考察する。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	少子高齢社会とこどもの生活		科目ナンバリング	YH_L23022	
担当者氏名	田中 博一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 			

《授業の概要》

日本の人口は2008年をピークに減少し始め、50年後は1億人になると推測されている。また、2055年の人口の高齢化は39.4%になることが予測されている。少子高齢社会は大きな社会問題として国民に高い関心があり、経済、社会のあり方に影響を及ぼす。家族と高齢者の扶養・介護と子育て・教育の在り方について論じる。子どもの自立と家庭生活を考察する。

《授業の到達目標》

少子高齢社会は社会を支える役割を果たす働き手が減少し、そのことによって生ずる社会的・経済的影響を理解する。そして、なぜ少子高齢化が進むかを考察し、その解決策等を各自が科学的根拠に基づいて考える力を養う。また、家族の役割と機能の変化を学び現代家族の特徴を理解し、さらに子どもの自立を家庭生活と地域の関係で説明できる。

《成績評価の方法》

レポート (80%)
 授業への参加意欲 (20%)
 別紙にコメントを付して渡す。

《テキスト》

山田正弘著『少子社会日本』岩波書店

《参考図書》

田中博一・小坂淳子編著『人間の尊厳と自立・社会の理解』法律文化社
 小澤勲著『認知症とはなにか』
 前田正子『子育てしやすい社会』ミネルヴァ書房
 江口隆裕『子ども手当と少子化対策』法律文化社
 河合隼雄『家族関係を考える』講談社

《授業時間外学習》

参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	日本の少子化の現状	人口統計、家族構成（世帯動向）にみる少子化の現状を解説
2	少子化の要因	結婚・出産・子育てをめぐる状況を解説
3	子ども・子育て支援	子ども・子育て支援施策の現状とその課題を解説する。
4	ワーク・ライフ・バランス	男性も女性も仕事と生活が調和する社会とはどのようなもので、その実態と施策を解説する。
5	少子化対策の現状と課題	子ども・子育てビジョン（2010年閣議決定）の内容を検討し、実際の政策の進捗状況を検証し、課題を考察する。
6	日本の高齢化の現状と将来	人口統計、家族構成（世帯動向）にみる高齢化の現状を解説する。
7	高齢化の要因	平均寿命の推移、医学の発達、社会保障の整備等の諸要因を分析して高齢化を分析する
8	高齢者の扶養・医療・介護保障	所得（年金）・医療・介護保障、それぞれの現状を理解し、その将来像を考察する。
9	高齢者世帯の現状	高齢者世帯の生活構造を分析し、その特徴を理解する。一人暮らしの高齢者の生活を理解する。
10	高齢者の介護問題	介護保障が未発達時代では高齢者介護は家族崩壊になることもあった。家族の介護とのかかわりを主として考察する。
11	法律（民法）にみる家族	親族・婚姻・婚外婚・親子関係を中心に制度上の“家族”を理解する。
12	家族関係	子ども、夫、妻、父、母、舅、姑のそれぞれの立場から家族の見方を考えてみる。とりわけ、夫婦関係、親子関係の本質を考察する。
13	こどもの直面する諸問題	いじめ、虐待、不登校など社会問題になっている子どもに深刻な問題を分析し、その解決策を検討する。
14	家庭とこどもの自立	基本的な生活能力とは何かをはじめに、こどもも生きる力を育むために家庭生活（家族関係）の在り方を追求する。
15	地域とこどもの自立	地域崩壊や地域消滅という社会問題に直面しているが、一方で地域の力で子どもを育てる支援が行われており、こどもの自立の視点で考察する。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	施設保育士論	科目ナンバリング	YH_L23012
担当者氏名	藤本 政則		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

乳児院や児童養護施設等の社会的養護施設において児童の養育に携わる保育士養成に焦点を絞り授業内容を構成する。児童虐待を受けた児童へのケアのあり方から始まり、関係機関としての児童相談所の役割、さらには今日強く求められている施設の地域の子育て拠点的功能の役割についても授業対象とする。施設の管理運営面においても知識を習得することを求める。

《テキスト》

なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考図書》

『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業の到達目標》

乳児院や児童養護施設等の社会的養護施設における保育士が提供すべき養育内容について理解する。また、施設の地域の子育て拠点的功能の役割についても授業対象とするとともに施設の管理運営面においても理解を深める。

《授業時間外学習》

毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
 授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《成績評価の方法》

1. 授業態度、授業内討論への参加（40%）
 2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価）（60%）
 授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

各講義の開始時に出席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
 授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	虐待対応の実際①－施設入所までの対応－	要保護児童地域対策協議会の体制と役割について。
2	虐待対応の実際②－施設入所までの対応－	児童相談所を中心とする児童虐待対応機関の体制について。
3	虐待対応の実際③－施設における治療的養育－	児童養護施設における被虐待児への対応について。
4	虐待対応の実際④－施設における治療的養育－	児童養護施設における被虐待児への対応について。
5	虐待対応の実際④－施設退所後の支援－	親子再統合、家庭復帰後の再虐待防止の為の支援について。
6	施設養護と小規模化	施設の小規模化、家庭的養護の推進について。
7	施設養護と小規模化の実際	施設の小規模化、家庭的養護を実際に取り組む事例から学ぶ。
8	施設養護と地域分散化	施設の地域分散化、適正配置について。
9	施設養護と地域分散化の実際	施設の地域分散化、適正配置の実際の事例について学ぶ。
10	施設養護と被措置児童虐待予防①	被措置児童虐待予防の法制度体制について。
11	施設養護と被措置児童虐待予防②	被措置児童虐待予防に向けた実際の実践例について学ぶ。
12	施設養護と第三者評価	第三者評価制度の概要と取組について。
13	施設における地域子育て支援①	虐待予防を目的とする子育て支援の内容とその実際について。
14	施設における地域子育て支援②	里親支援の内容とその実際について。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、施設保育士の果たす役割について考える。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	幼児のための福祉教育 I		科目ナンバリング	YH_L23016	
担当者氏名	田中 博一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

少子高齢社会において、福祉教育は「共に生きる社会」と「自立」とは何かを理解しそれを実践する心を養うための教育である。「障害」を「生活の困難」という理解をもとに、支えあう心の涵養がその目的である。先人の活動と現代の実態から共生社会実現を考える。

《授業の到達目標》

1 共生社会と自立の意味を学び、共に生きる社会の在り方を理解し説明できる。2 障害者、高齢者が生活（人生）の困難を乗り越え、生きるための全体像を把握し説明できる。3 幼児のための福祉教育の意義を説明でき、その方法を習得して保育に活かすことができる。

《成績評価の方法》

期末テスト（80%）
 授業態度・プレゼンテーション（20%）
 解答用紙に正解とコメントを付して返却する。

《テキスト》

プリント配布

《参考図書》

滋賀県社会福祉協議会編『みんなちがってみな同じ』サンライズ出版
 レオ・バスカーリア『葉っぱのフレディー命の旅』 童話屋こわせ たまみ『クイールはもうどう犬になった』ひさかたチャイルド社
 高谷清『重い障害を生きるということ』岩波書店

《授業時間外学習》

参考図書を読む

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児のための福祉教育	少子高齢化社会における「共生社会」と「自立」の精神を養い、「きずき」の意義を解説する。
2	いのちの大切さを語る	いのちの誕生と子どもを見守る人々の存在を認識し、その関係性を解説する。
3	生きる喜びを考える	絵本「葉っぱのフレディー」を使って「生」「死」を考える
4	“ちがい”と“おなじ”	エド・ロバーツの人生を例に、人は心身に障害の有無にかかわらず“差”はあっても“いのち”の価値は同じであることを認識する
5	「障害」とこども	絵本「はせがわくんきらいや」にみる行為と絆を考える
6	「こころを寄せ合う」	写真集「クイールはもうどう犬になった」を活用して「こころを寄せ合う」ことを考える
7	ユニバーサルデザイン	“ひとつですべてを”の標語に示されるユニバーサルデザインの由来から実社会で利用されている制度やものの在り方を通して「共生と自立」の理解
8	ICFの理論と実際 I	WHOのICFの理論と実際を学び、「障害」を正しく理解し、「活動」、「参加」等5つの因子の相互作用による健康の概念と自立支援を理解する。
9	ICFの理論と実際 II	生命・生活・人生を包括する「生活機能」の意味を理解する
10	「ともに生きる」理念	地域、学校（幼稚園）、保育所で行われている高齢者、障害者が生きる活動を通してみる支えあいの教育を解説する。
11	高齢者の生活と活動	高齢者の心身の特性と日常生活を理解し、とりわけ、どのようなことが生活の上で困っているかを知り、その解決のための方策を理解する。
12	福祉教育における「感性」と「理性」	ビデオ「ペコロスの母に会いに行く」を使った高齢者理解の事例検討
13	体験活動と福祉教育	訪問交流、収集・募金活動、清掃・美化活動の過程においてこどもの意識変化について理解する。
14	ボランティア活動と福祉教育	ボランティアは文字どおり自発的なものであり、福祉教育の延長線上に現われるもののひとつである。その意味と活動例を検証する。
15	幼児のための福祉教育プログラム	保育の場で福祉教育を実践するためのポイントと事例を通して紹介する。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	幼児のための福祉教育Ⅱ	科目ナンバリング	YH_S24017
担当者氏名	古川 督		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

人間尊重の精神を基盤として、幼児に支え合う心を理解させ、福祉社会を形成していく能力を育てる教育について、基本的な理解と実践の態度を養う。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

授業内で適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

- 福祉教育の必要性を理解し、保育者としての資質を身につける。
- 幼児教育の場における支えあいの意味を理解する。
- 福祉教育を実践する方法を身につける。

《授業時間外学習》

- ・幼児に関する新聞やニュースなどの情報を収集し、まとめておくこと。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度も含む30%）、小課題（レポートなど）（20%）、筆記試験（50%）により評価する。
 なお、レポートや筆記試験に関しては、実施後に評価ポイントの説明や解説を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	福祉って、何だろう	幼児教育の一分野としての福祉について考える。
2	「いのち」と「こころ」	「いのち」の大切さや「こころ」を育てるということの意味について深く考え、理解することができる。見えないものこそ大切にすることに気付く。
3	幼児のための福祉教育とは	「幼児のための福祉教育」について理解し、幼児教育の場における支えあいの意味を理解することができる。
4	幼児を取り巻く環境の変化（1）	学生各々が資料を収集し、それを基にディスカッション・ロールプレイなどを通じ、理論的認識を深め、実践的応用力を身につける。
5	幼児を取り巻く環境の変化（2）	学生各々が資料を収集し、それを基にディスカッション・ロールプレイなどを通じ、理論的認識を深め、実践的応用力を身につける。
6	幼児を取り巻く環境の変化（3）	学生各々が資料を収集し、それを基にディスカッション・ロールプレイなどを通じ、理論的認識を深め、実践的応用力を身につける。
7	福祉のこころをはぐくむ（1）	実践事例を基に、グループワークを通じ、実践的応用力を身につける。
8	福祉のこころをはぐくむ（2）	実践事例を基に、グループワークを通じ、実践的応用力を身につける。
9	福祉のこころをはぐくむ（3）	実践事例を基に、グループワークなどを通じ、実践的応用力を身につける。
10	福祉のこころをはぐくむ（4）	実践事例を基に、グループワークを通じ、実践的応用力を身につける。
11	幼稚園・保育所の役割（1）	幼児に福祉のこころをはぐくむ指導案などを作成し、福祉教育を実践する方法を知ることができる。（視聴覚教材）
12	幼稚園・保育所の役割（2）	幼児に福祉のこころをはぐくむ指導案などを作成し、福祉教育を実践する方法を知ることができる。（視聴覚教材）
13	幼稚園・保育所の役割（3）	幼児に福祉のこころをはぐくむ指導案などを作成し、福祉教育を実践する方法を知ることができる。（視聴覚教材）
14	こころを育てる資料	学修したことを資料としてまとめ、保育現場で活用することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容と得られた知見とその成果を実習の場で活かすことができる。